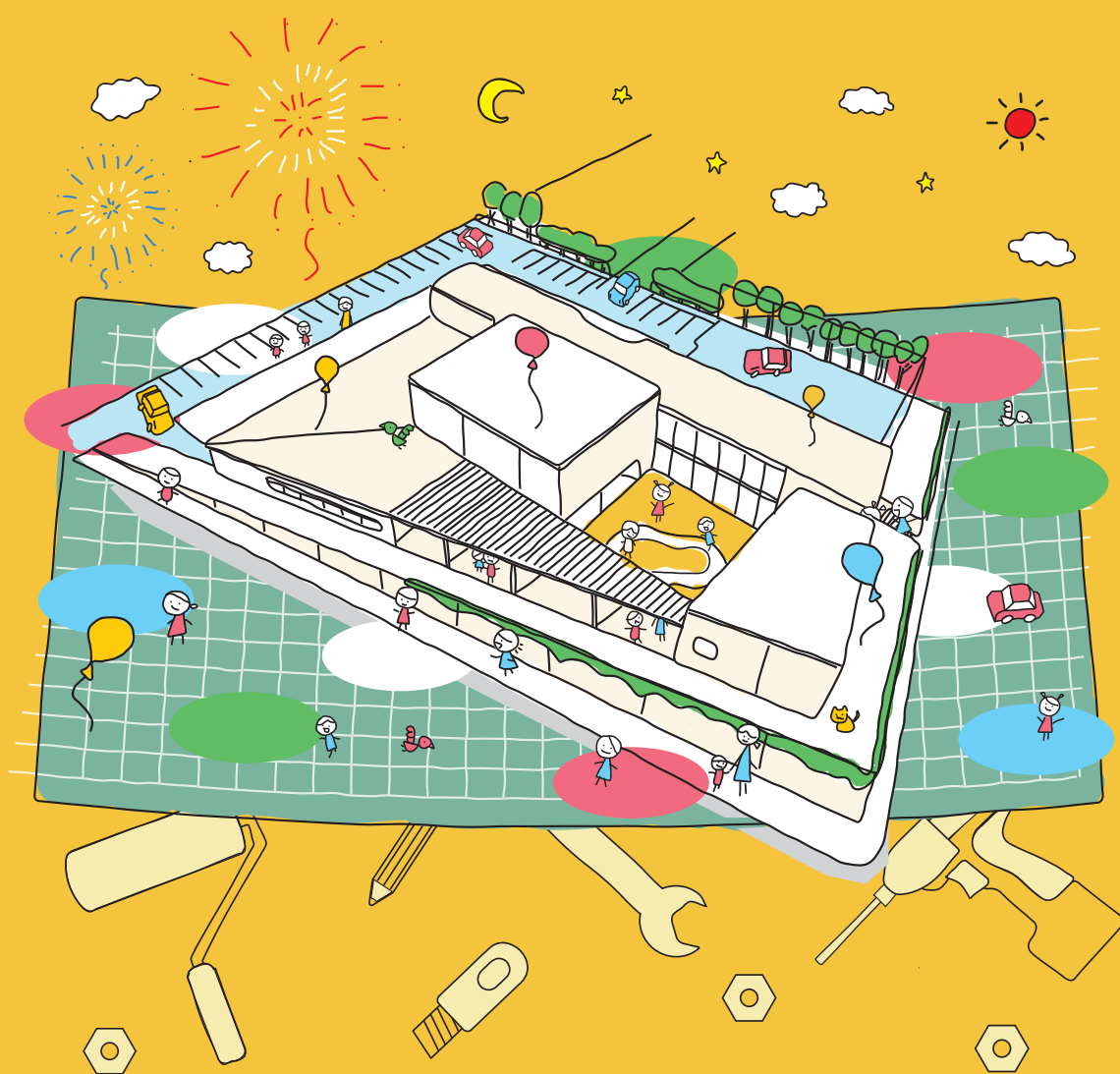


n o b e o k a

みんなが つどい つながり はぐくむ

こどもの キチ 居場所 づくり



南部地域子育て支援拠点施設整備基本計画

令和 7 年 3 月 延岡市

k o s o d a t e

目次

1 はじめに

1-1 基本計画の趣旨	1
1-2 策定の目的	1
1-3 基本計画の位置づけ	2
1-4 基本計画の策定プロセス	2

2 基本構想の整理

2-1 構想のまとめ	3
2-2 基本計画に求められる課題	5

3 先進事例調査・分析

3-1 かすやこども館（福岡県糟屋郡粕屋町）	6
3-2 福津市児童センターFUCSTA（福岡県福津市）	8
3-3 子育て支援総合施設 モッカランド（福岡県大川市）	10
3-4 大牟田市ともだちや絵本美術館（福岡県大牟田市）	12

4 ワークショップ

4-1 第一弾ワークショップ	14
4-2 第二弾ワークショップ	16
4-3 高校生ワークショップ	18

5 関係者ヒアリング

5-1 関係者ヒアリング	20
--------------------	----

6 施設立地検討

6-1 最終候補地の再検討	25
6-2 市営住宅D団地の一部を敷地とする場合の検討課題	28
6-3 利用者圏域の検討・設定	29

7 基本与件の整理

7-1 導入機能の検討	30
7-2 施設機能の必要面積の検討	32
7-3 諸室ゾーニング検討	34

8 配置計画

8-1 敷地可能性検討	35
8-2 駐車場レイアウト検討	36

9 施設計画（モデルプラン）

9-1 モデル案作成	37
9-2 比較検討	41
9-3 イメージパース	44
9-4 周辺への影響	45

10 諸計画

10-1 関連法規	47
10-2 構造計画	47
10-3 設備計画	48
10-4 外構計画	49
10-5 整備概算計画	50
10-6 整備財源計画	52
10-7 ランニングコスト	53
10-8 人員配置計画	54

11 運営・管理検討

11-1 運営手法検討	55
11-2 運営体制検討	55

12 基本設計・実施設計における課題

12-1 設計の課題	56
12-2 管理計画の課題	56

13 スケジュール

検討資料

（1）ワークショップ議事録	60
（2）先進事例施設面積表	77
（3）アンケート調査	80
（4）検討組織の委員名簿	82

図面リスト

1 はじめに

1-1 基本計画の趣旨

近年、少子化傾向はもとより、子育てを取り巻く環境の変化は著しく、地域のつながりの希薄化や核家族化の進行による子育て世帯の孤立、女性の社会進出に伴う低年齢時からの保育ニーズの増大、経済的に困窮な状況にある世帯におけるこどもへの貧困の連鎖など、様々な社会課題を背景に、子育て家庭への支援は一層重要度を増しています。

国においては、令和5年4月、「こども基本法」が施行され、次代の社会を担うすべてのこどもが、健やかに成長し、心身の状況や置かれた環境にかかわらず、幸福生活を送ることができる社会の実現をめざしたものです。

延岡市においては、かねてより、天候に左右されず安心して遊ぶことができる屋内外の遊び場所や、子育て世帯がゆったりと集い、仲間同士の交流を通じた学びや安らげる場所、楽しくワクワク感が味わえる場所が欲しいという要望が多く寄せられ、また、すべての世代が集う中での次世代の育成の重要性も指摘されてきました。

そのため、令和5年度に、0歳から18歳までのすべてのこどもや子育て世帯に寄り添い、地域の大人も関わる中で、こどもの成長や発達の過程に応じたきめ細やかな支援を切れ目なく行うための「キチ」となるよう「（仮称）南部地域子育て支援拠点施設整備・基本構想（以下「基本構想」という。）」を策定し、基本理念や基本方針、施設概要などの検討を進めてきました。

令和6年度においては、基本構想の実現可能性を検証し、より具現化を図るため、先進地事例やアンケート調査をはじめ、関係者や高校生とのワークショップなどを重ねながら、施設立地の検討から施設計画や配置計画などの「南部地域子育て支援拠点施設整備・基本計画（以下「基本計画」という。）」を策定するものです。この基本計画は、基本構想をもとに、新たに整備する施設の整備方針等の具現化を図ります。

1-2 策定の目的

本計画は、令和5年度に策定した基本構想をもとに、施設の規模や機能等について、専門的知識を活用し、実現可能性を検討することで、「南部地域子育て支援拠点施設（以下「本施設」という。）」の整備について、より具現化を図るため、基本計画を策定します。

1-3 基本計画の位置づけ

基本計画は、基本構想で位置付けられた基本的な方向性やコンセプト等を踏襲し、さらに精度の高い検討を加え、その後の基本設計及び実施設計につないでいく極めて重要な検討業務です。

令和5年度に策定した基本構想に基づき、施設配置、施設の規模や機能、実施に至る法的課題、維持管理等について、より精度の高い検討を加えます。

さらにアンケートやワークショップなどを実施し、広く利用者や市民の声を踏まえながら、専門的知識を活用し、実現可能性を検討することで、本施設の整備について、より具体化な検討をします。

また、その後の基本設計・実施設計の与件となる計画レベルの仕様を決定し、それらの検討を総合して基本計画を策定します。

1-4 基本計画の策定プロセス

基本計画策定にあたっては、地区代表、小・中学校関係、こども・子育て事業従事者、地域の保護者などで構成される「南部地域子育て支援施設建設検討委員会」を設置し、そこでの検討・協議を経て基本計画を作成します。

2 基本構想の整理

2-1 構想のまとめ

(1) 南部地域の現状と課題

- ・南部地域の人口は、市総人口の約 13.1%。0～14歳の人口は1,862人で市全体の約 13.2%。また、現在では核家族化の進行により世帯数の増加が見られます。
- ・周辺には児童館や子育て支援施設がない一方、地理的に最も近い緑ヶ丘児童館の利用状況から、利用施設の分散化が必要です。
- ・地域へのアクセスは、東九州自動車道延岡道路の延岡南ICが隣接しており市内外からの利便性や賑わい創出が期待されます。
- ・一ヶ岡地域は「脱炭素先行地域」に選定されたことで太陽光発電や再生可能エネルギー等の率先的な導入が図られる地域です。

(2) 施設整備の基本的な考え方

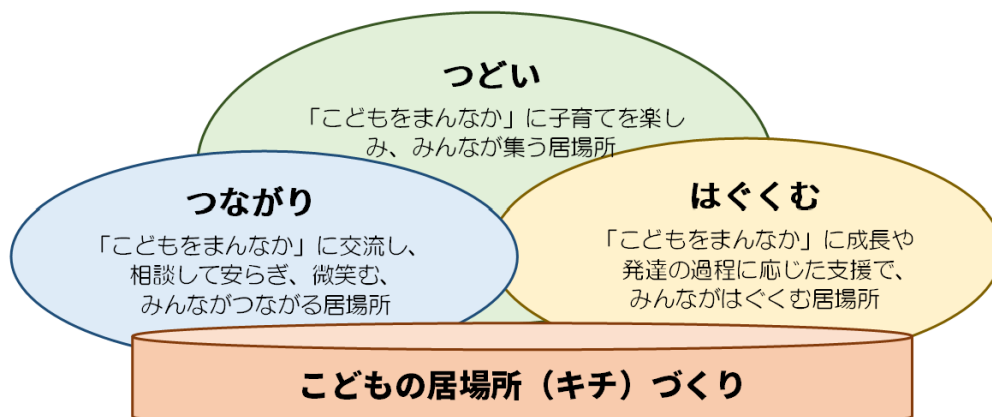
■基本理念

「みんなが つどい つながり はぐくむ こどもの居場所（キチ）づくり」

「キチ」という言葉には、「こどもがわくわくすること」「主体的に考え行動すること」などの意味を込めています。

■基本方針

- ①「こどもをまんなか」に子育てを楽しみ、みんなが集う居場所づくり
- ②「こどもをまんなか」に交流し、相談して安らぎ、微笑む、みんながつながる居場所づくり
- ③「こどもをまんなか」に成長や発達の過程に応じた支援で、みんながはぐくむ居場所づくり
- ④「こどもをまんなか」にこどもが主体的・自主的に考え、わくわくする「キチづくり」による、みんながつどい、つながり、はぐくむ居場所づくり



■施設整備にあたっての考え方

- ①安心・安全な施設づくり
- ②遊びや主体的な学びができる施設づくり
- ③ゾーニングや利用者動線などユニバーサルデザインに配慮した施設づくり
- ④明るく、木のぬくもりを感じる施設づくり
- ⑤地域と連携がとれた施設づくり
- ⑥脱炭素社会の実現を目指した環境にやさしいシンボリックな施設づくり
- ⑦集約される市営住宅との調査と周辺地域に配慮した施設づくり

■施設構成イメージ

①子育て世代活動ゾーン

機能：キッズルーム、相談室、静養室、授乳室、病後児保育室、一時預かり保育室
多目的ホール、屋外広場、室内運動場、調理室

②児童活動ゾーン

機能：キッズルーム、図書室・学習室、ワークルーム・ミーティング室、
多目的ホール、屋外広場、室内運動場、調理室

③相談支援ゾーン

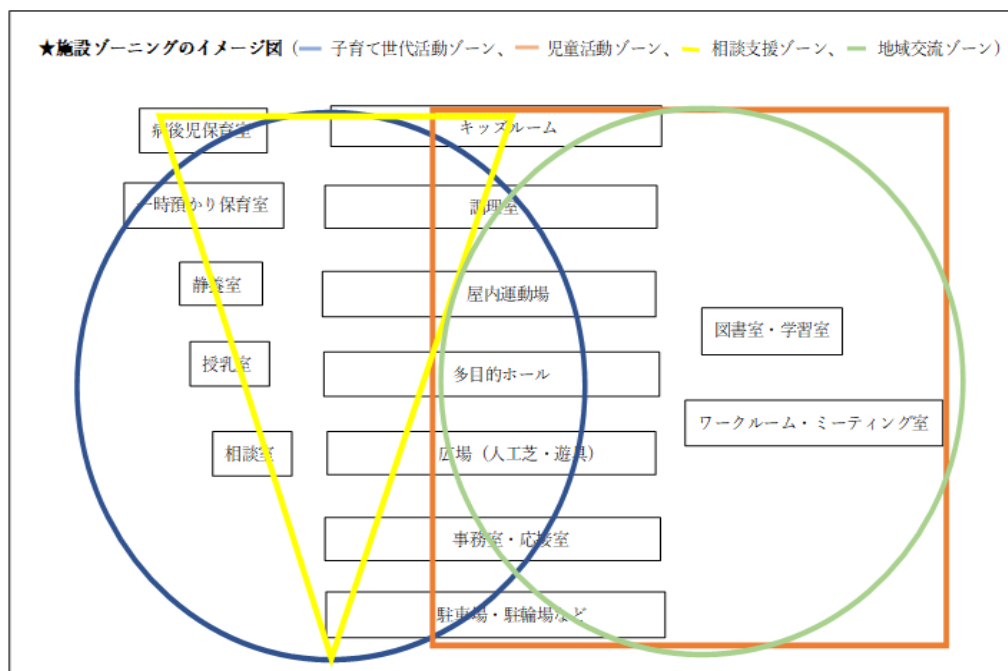
機能：キッズルーム、病後児保育室、一時預かり保育室、相談室、静養室、授乳室、
調理室

④地域交流ゾーン

機能：ワークルーム・ミーティング室、調理室、多目的ホール、屋外ホール、
屋外広場、室内運動場

⑤施設管理・運営ゾーン

機能：事務室、応接室、倉庫・備蓄倉庫、駐車・駐輪場、太陽光発電システム



2-2 基本計画に求められる課題

基本構想において、現状分析などをもとに基本的な施設整備の方向性や、コンセプトなどは明示されており、実現可能性を検証し、より具現化に向けて専門的知識を活用しながら課題を整理します。

(1) 敷地に関して

- 市営住宅 D 団地跡を建設候補地としていますが、隣接して計画される市営団地の建替計画との整合性をとり、敷地形状や面積などを決定します。
- 市営住宅 D 団地跡は第一種低層住宅専用地域であり、高さ、面積等で制限を受けるため、理想的な規模の施設建設にあたっては住民説明会や建築審査会などの検討が必要です。

(2) 施設規模について

- 構想段階で設定された導入機能に基づき、施設面積を約 1000 m²と設定していますが、実現可能性を踏まえながら、事例調査や、想定される利用者数などから適切な規模を算出します。
- 施設面積と同時に、駐車場台数（駐車場面積）、屋外広場などの面積も検討します。
- 導入機能やその面積についても、より詳細に算定します。

(3) 運営・管理について

- 構想段階では指定管理制度の導入が明記されていますが、どのような機能や部分を指定管理とするか、あるいは個人情報の扱いなど、より詳細な検討が必要です。さらに、運営・管理の方法により、施設に配置される人員規模や施設面積などの検討が必要となります。

(4) 脱炭素の具体化

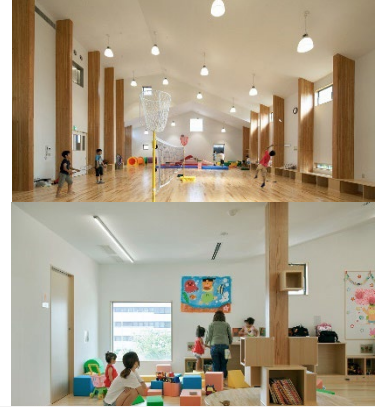
- 本市が指定された「脱炭素先行地域」を具体的に実行するために、施設の構造（木造等）、ZEB⁽¹⁾を前提とした施設の設備（太陽光利用等）、ランニングコストの削減などを基本計画レベルとして検討が必要です。

(1) ZEB

先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物

3 先進事例調査・分析

3-1 かすやこども館（福岡県糟屋郡粕屋町）



住 所：福岡県糟屋郡粕屋町駕与丁 1 丁目 6 番 1

用 途：児童福祉施設

建築面積：1004.53 m² 延べ面積：1509.55 m² 構造：木造 2 階建 開館：平成 28 年

入館者数：平成 30 年度 56,559 人、令和元年度 45,754 人、令和 2 年度 13,650 人

主な機能：縁側ロビー、相談室、適応指導教室、事務所、更衣室、教育相談室、造作スペース、学習スペース、ボランティアルーム、子育て支援ルーム、飲食コーナー、授乳室、男女トイレ、多目的トイレ、エントランス、運動スペース、多目的ホール、お話しリビング

① 概要

かすやこども館は、児童館の機能と地域子育て支援センターの機能を併せ持った施設です。対象者は、0 歳から 18 歳までの児童と、その保護者、子育て支援のボランティアなどです。こどもが遊んだり学んだりする場を提供し、様々な世代のこどもたちや保護者同士が交流できることを目的としています。また、子育ての情報発信や相談支援の拠点となっています。

② 施設立地に関して

粕屋町役場、サンレイクかすやなどの公共施設が隣接し、施設近辺には大型の公園（駕与丁公園）、粕屋町総合体育館などもある住宅地エリアとなっています。駐車場は施設内駐車場が 15 台、周辺公共施設（サンレイクかすや、粕屋町役場）の駐車場が多数あります。

③ 建築・空間に関して

主な機能：児童館の機能と地域子育て支援センターの機能

対象年齢：0 歳～18 歳まで、保護者、子育て支援ボランティア

靴の有無：子育て支援ルーム、運動スペースは上足、その他は下足

④ 運営に関して

施設の運営形態：公共（直営）

開館時間：9 時～20 時（子育て支援ルーム：9 時 30 分～16 時）

※小学生のみの利用は 17 時まで（6 月～9 月は 18 時まで）

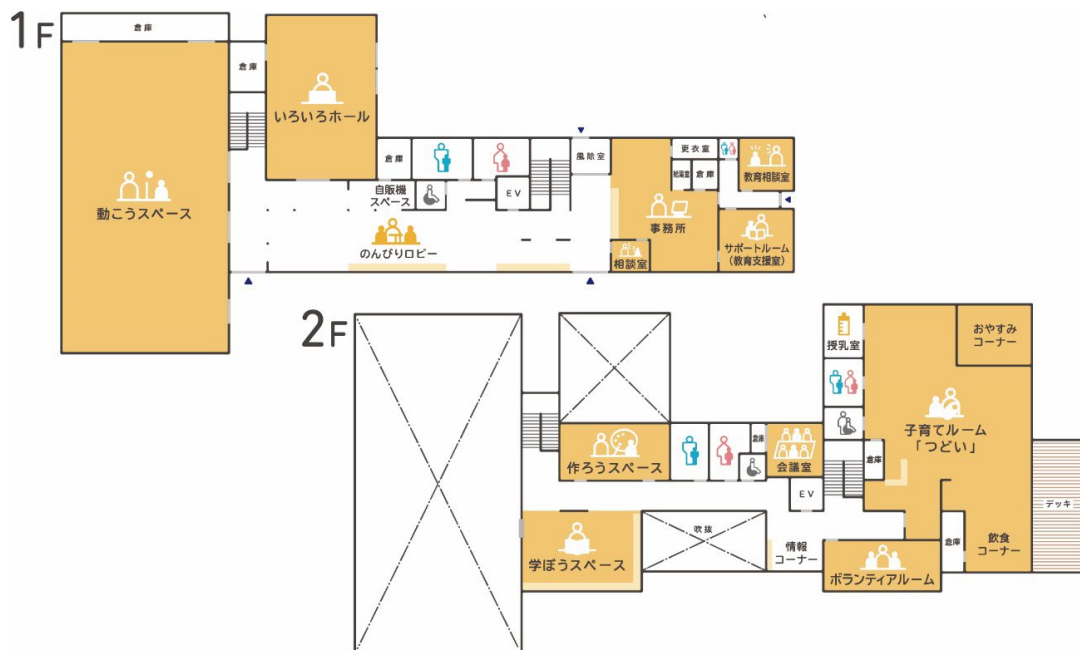
休館日：毎週第二日曜日とその翌日の月曜日、年末年始、特別清掃日

人員配置：館長 1 名、職員 5 名（正職員 3 名、再任用職員 2 名）、
 ファミリー・サポート・センターアドバイザー 1 名、
 子ども家庭支援員・虐待対応専門員 2 名、
 子育てルーム 5 名（行政サービス包括業務委託）、
 受付事務員 6 名（行政サービス包括業務委託）

対象者：粕屋町在住又は、粕屋町の学校等に通っている、祖父母が粕屋町在住、
 粕屋町の事業所に勤務している方

⑤ 主な機能の面積に関して

部屋名	面積（㎡）	機能説明
事務室（給湯室、更衣室、倉庫含む）	71.675	
縁側ロビー	49.5	休憩・ギャラリー・各種イベント開催等
おはなしリビング	40.5	休憩・ギャラリー・各種イベント開催等
適応指導教室	24.75	不登校児の自立支援
相談室	6.325	教育相談、親へのサポート
教育相談室	15	子育てや児童相談等を行う
会議室	20.025	来客用及び来館者等の利用
多目的ホール（倉庫含む）	109.25	イベント・ワークショップ・講習等の開催
運動スペース（倉庫含む）	300	屋内運動スペース（卓球やダンス等）
子育て支援ルーム（WC、倉庫含む）	262.875	乳幼児（未就学児）の遊び場と親の交流の場
ボランティアルーム	33.25	ボランティアスタッフの待機・活動等の場
学習スペース	54	放課後・休日の勉強スペース
創作スペース	34	工作室・ワークショップ開催



3-2 福津市児童センターFUCSTA（福岡県福津市）



住 所：福岡県福津市手光南 2 丁目 1 番 1 号

用 途：児童福祉施設、事務所、車庫など

建築面積：2536.61 m² 延べ面積：2391.91 m² 構造：鉄骨造 2 階建 開館：平成 25 年

入館者数：平成 25 年度 2 万人弱

主な機能：相談室 1・2、ボランティアスペース、子育てサロン 1・2、事務室 1・2・3、ワークプラザ 1・2（シルバー人材センター）、休憩室（シルバー人材センター）、学習室 1・2・3、キッチン、作業室、多目的室、音楽スタジオ、ロビー・売店

① 概要

中庭を中心に児童センター「FUCSTA」、子育て支援センター「なかよし」、シルバー人材センターを配置した施設。「FUCSTA」では小学校 1 年生～高校 3 年生までを対象に遊び・学び・交流の場として使用されています。「なかよし」は就学前の児童とその保護者や同伴者が一緒に遊べる場所です。子育て相談や子育て情報、子育てに関する講座なども行っています。

② 施設立地に関して

児童センター、子育て支援センター、シルバー人材センターが中庭を中心に配置され、道路対面には健康福祉総合センターや車で 5 分圏内に福津市役所もあり、周辺に公共施設が集積したエリアです。

駐車場は施設内駐車場 88 台、道路対面の周辺施設（福津市健康福祉総合センターふくとびあ）の駐車場が多数あります。

③ 建築・空間に関して

主な機能：0 歳～18 歳までを対象に遊び・学び・交流などを行うことができる機能

子育て世代の親を中心に相談・情報・講座などを実施

対象年齢：0 歳～18 歳またはその保護者及び同伴者

靴の有無：子育てサロン 1・2、ロビー、キッチン、スタジオ、多目的室は上足、

その他は下足

④ 運営に関して

施設の運営形態：直営

開館時間：【FUCSTA】小学生 9 時～17 時、中学生 9 時～21 時
【なかよし】8 時 30 分～17 時（子育てサロンは 9 時 30 分～16 時）
休館日：毎週月曜日、第 2 土曜日とそれに続く日曜日、年末年始
人員配置：【FUCSTA】センター長（再任用）1 名、係長（一般行政職）1 名、
指導員（教員資格）1 名、見守りスタッフ（会計年度任用職員）13 名
【なかよし】事務職員（うち 1 名教員資格）、
なかよしルームスタッフ（保育士又は教員資格）8 名、
ファミリー・サポート・センターアドバイザー（会計年度任用職員）1 名
対象者：【FUCSTA】市内在中又は市内の学校に通学している小学生～高校 3 年生
【なかよし】0 歳～6 歳（未就学児）の親子

⑤ 主な機能の面積に関して

部屋名	面積（㎡）	機能説明
相談室	18.3	子育てや児童相談等を行う
ボランティアスペース	28.89	会議室、ボランティアスタッフ待機
子育てサロン1（授乳室含む）	156.95	乳幼児（未就学児）の遊び場と親の交流の場
子育てサロン2	70.6	乳幼児（未就学児）の遊び場と親の交流の場
事務室（子育て支援）	70.9	
事務室（児童センター）	58.57	
事務室（シルバー人材）	95.19	
ワークプラザ1（シルバー人材）	234.36	シルバー人材センター活動スペース
ワークプラザ2（シルバー人材）	81.56	シルバー人材センター活動スペース
休憩室（シルバー人材）	29.87	
学習室1	50.46	放課後・休日の勉強スペース
学習室2	53.43	放課後・休日の勉強スペース
学習室3	47.11	放課後・休日の勉強スペース
キッチン	24.91	児童の料理教室などで使用
作業室	80.83	作業やボードゲームなどができる
多目的室	129.29	卓球、音楽やダンスなどで使用
音楽スタジオ	27.32	ギター・ドラムなどを貸出、音楽演奏ができる
ロビー・売店	150.17	飲食可能スペース子育て支援センターと共有



3-3 子育て支援総合施設 モッカランド（福岡県大川市）



住 所：福岡県大川市大字上巻 387 番地

用 途：児童福祉施設

建築面積：1824.53 m² 延べ面積：1747.65 m² 構造：木造1階建 開館：令和3年

入館者数：10月17,059人、11月17,703人、12月6,514人

主な機能：事務室、会議室、相談室、男女トイレ、男女更衣室、多目的トイレ、絵本コーナー、プレイルーム、カフェ兼ワーキングスペース、多目的ホール、診察室、読み聞かせコーナー、調理室・親子ランチ、ことばの教室、学習室、売店コーナー、授乳室

① 概要

大川市子育て支援総合施設「モッカランド」は、妊娠期から子育て期までのこどもと家庭を支援するとともに、イベントなどを通して学習や交流の場を提供し、地域における子育て支援の拠点として、設置されました。

② 施設立地に関して

大川中央公園にある施設。車で5分圏内に大川市役所、大川市立図書館、保健センターなどの公共施設が集積したエリアです。

駐車場は施設内駐車場27台、道路対面の周辺施設（大川市立図書館、大川市保健センター）の駐車場多数あります。

※休日・祝日は満車になることがあり、周辺施設駐車場を使用しています。

③ 建築・空間に関して

主な機能：子育て世代包括支援センター（母子保健法）、子ども家庭総合支援拠点（児童福祉法）、児童の発達支援、地域子ども子育て支援拠点、ファミリー・サポート・センター、子育て世代の就労支援

対象年齢：就学前児童、その保護者及び同伴者

靴の有無：すべての部屋が上足※エントランスに靴箱あり

④ 運営に関して

施設の運営形態：ファミリー・サポート・センターは社会福祉協議会に委託、就労支援は県の事業、その他はすべて直営

開館時間：8時30分～17時15分

（モッカルーム（プレイルーム）は9時～16時30分）

休館日 : 第二・第四月曜日（祝日及び振替休日の場合、その翌日）、年末年始
 人員配置 : 【子育て世代包括支援センター（母子保健法）】保健師、管理栄養士、助産師
 【子ども家庭こども総合支援拠点】社会福祉士、元児童相談所職員、保育士（保健師兼務）
 【児童の発達支援】作業療法士、言語聴覚士、元教職員
 【地域子ども子育て支援拠点】保育士 計 21 名
 対象者 : 就学前のお子さん、その保護者及びその同伴者、これから子育てを行おうとする方及びその同伴者、モッカランドで実施する事業の従事者及び対象者、大川市ファミリー・サポート・センター会員及びみまもり対象のお子さん

⑥ 主な機能の面積に関して

部屋名	面積 (㎡)	機能説明
相談室 1	16	子育てや児童相談等を行う
相談室 2	12	子育てや児童相談等を行う
プレイルーム 1	120	乳幼児（未就学児）の遊び場と親の交流の場
プレイルーム 2	34	乳幼児（未就学児）の遊び場と親の交流の場
プレイルーム 3	48	乳幼児（未就学児）の遊び場と親の交流の場
事務室・給湯室・書庫（ファミサポ）	77	ファミリー・サポート・センター事務室
ことばの教室	21.5	ことばのつまずきへの支援教室
事務室・書庫・更衣室・給湯室など	118.09	
読み聞かせコーナー	10	
ロビー 2（絵本コーナー 2）	155.73	休憩、ギャラリー、各種イベントスペース
調理室・親子ランチ	99	離乳食教室、親子ランチ、料理教室などを開催
多目的ホール	192	研修会、講演会、乳幼児健診、各種イベントスペース
診察室 1・2・3・4	40	発達診断等の個別の診断など
学習室	66	各種講座・活動スペース
カフェ兼コワーキングスペース	108	軽食やお茶など提供。テレワークとしての使用可能
エントランス（絵本コーナー 1）	95	絵本読書スペースなど



3-4 大牟田市ともだちや絵本美術館（福岡県大牟田市）



住 所：福岡県大牟田市若宮町２－１

用 途：美術館※博物館法に則った物ではない

建築面積：616.10㎡ 延べ面積：616.10㎡ 構造：木造１階建 開館：令和３年

入館者数：１０月 17,059 人、１１月 17,703 人、１２月 6,514 人

主な機能：えほんギャラリー（展示室）、のんびりホール（休憩室）、ともだちルーム（絵本の部屋）、スタジオ・オフィス（事務室）、ショップ・ワークショップスペース、収蔵庫、倉庫、授乳室、多目的トイレ、男女トイレ

① 概要

大牟田市ともだちや絵本美術館は、日本で初めての動物園内にできた絵本の美術館です。令和３年１０月に開館し、絵本原画を展示するほか、動物園等と連携し、多様な企画展などを開催してきました。また、休憩室を活用し、動物園や絵本関連のワークショップや講演会なども開催しています。絵本に限らず、動物園の動物福祉の取り組みや動物の習性等のパネル展示、郷土作家の紹介など、幅広く活用することにより、動物園の新たな魅力創出につなげることができる施設です。

アートやデザインなどクリエイティブな手法を取り入れながら、常により良い美術館を目指しています。

② 施設立地に関して

駐車場：施設近辺駐車場（２０台）、動物園駐車場（３３５台、マイクロバス用１３台）

周辺環境：大牟田市動物園内にある施設。施設側入口周辺は住宅街となっています。

③ 建築・空間に関して

主な機能：絵本原画の展示・活用、動物園の休憩所、動物園や地域の団体と連携したイベント・ワークショップ等の実施、定期的な絵本の読み聞かせ

対象年齢：なし

靴の有無：ともだちルームは上足、その他は下足

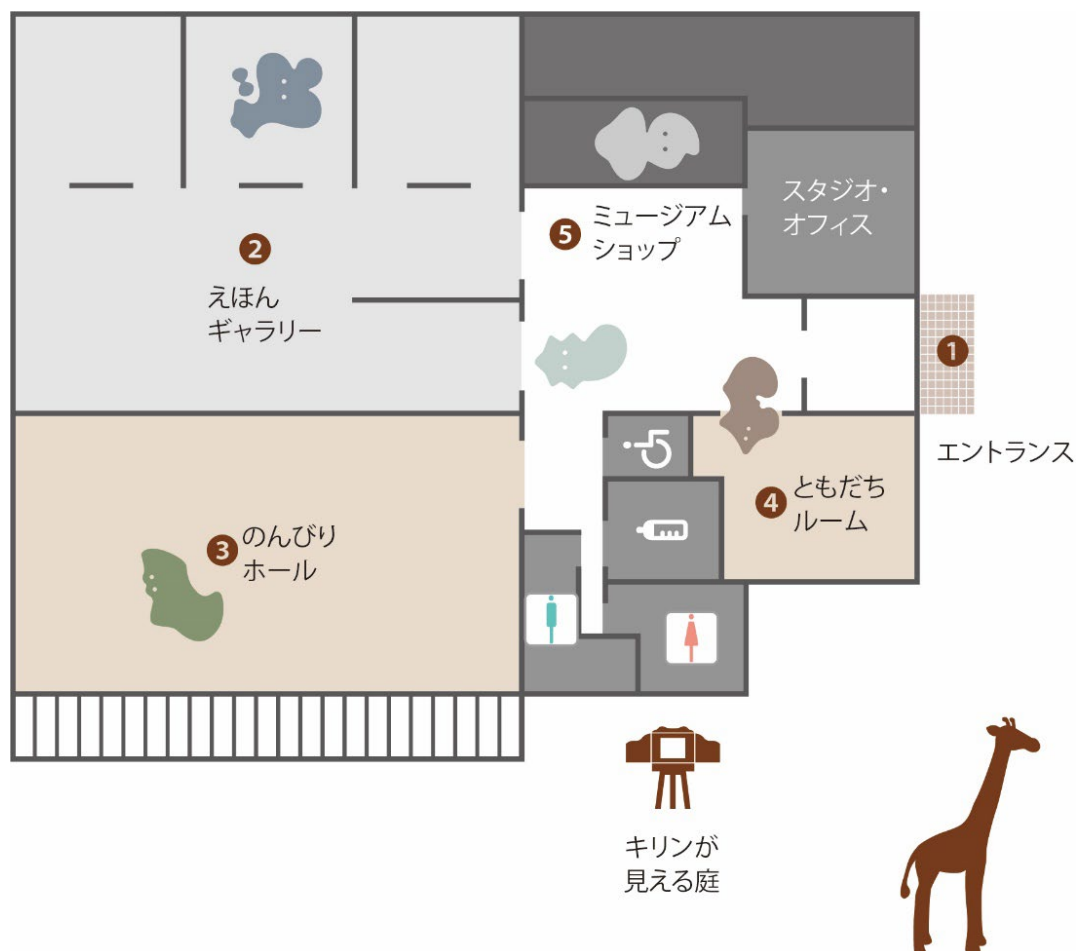
④ 運営に関して

施設の運営形態：直営（業務委託：㈱環境デザイン機構）

開館時間 : 9 時 30 分～17 時(12 月～2 月の冬季は 9 時 30 分～16 時 30 分)
 休館日 : 第二・第四月曜日(祝日及び振替休日の場合、その翌日)、年末年始
 人員配置 : プロデューサー 1 名、マネージャー 1 名、運営職員 2 名、
 運営補助職員 1 名
 ※イベント時は、環境デザイン機構及び大牟田市職員が応援
 ※専門職員の配置はない
 対象者 : 大牟田市動物園来園者

⑤ 主な機能の面積に関して

部屋名	面積 (㎡)	機能説明
えほんギャラリー	208.65	絵本に関する原画や作品、動物家具などの展示
のんびりホール	149.05	動物園の休憩所、イベント・ワークショップ開催場所
ともだちルーム	36.78	絵本の読み聞かせや絵本の読書スペース
スタジオ・オフィス	29.81	事務室機能、作品作りスペース
ショップ・ワークショップスペース	59.63	動物関係のショップやイベント開催スペース
倉庫	39.74	
収蔵室	19.87	1000 枚以上の原画を収蔵
授乳室	11.21	



4 ワークショップ

4-1 第一弾ワークショップ

(1) 概要

施設の設置場所、主な機能、広さなどが決まった段階であり、利用が想定される児童、および保護者を対象として、日常生活の様子、あるいは求められる機能、関心のある遊び、カフェや飲食機能、デジタルの要素などについて地形模型や図面などを使いながら会話を行いました。

■第一部 参加者 こども 10 名（小学 1 年生—中学 3 年生）

■第二部 参加者 保護者 12 名（男性 2 名 女性 10 名）

コーディネーター：2 名

(2) 主な意見

- ・こどもたちは、児童館やえんキッズで放課後遊んでいて、半数が行ったことがある。
 - ・VR ルーム、シアタールームなどの要望
 - ・土々呂中学校の近くの民間建設会社が、こどもたちにスペースを開放していて、人気
 - ・えんキッズは、ルールが多すぎてこどもが自由に遊べない。
 - ・遊具よりもこどもたちが自由に出入りでき、使えるスペースが欲しい。
- （詳細は巻末資料参照）



第一部



第二部



どんな空間にしよう？親子で考えよう！

ワクワクデザイン ワークショップ

2024 9/29 (日)
wakuwakudesign workshop

延岡市南部地域子育て支援施設

第1部 10:00～11:30 第2部 13:30～15:00

どんな事をするの？

現在、延岡市南部地域子育て支援施設の計画が進んでいます。そこで皆さんからこの施設に対するご意見やアイデアをいただき計画に反映させワクワクする素晴らしい施設にするためにデザインをテーマとしたワークショップを開催します。ぜひ気軽にご参加ください。



▲ 建築模型を囲んで他都市の事例を見ながら、専門の進行役（ファシリテーター）といっしょにみんなでお話ししながら計画を作っていきます！

第1部 こども

2024年9月29日(日) 10:00～11:30まで
参加対象：小学校高学年(4年生)から中学校3年生まで

第2部 大人

2024年9月29日(日) 13:30～15:00まで
参加対象：子育て中の保護者の皆様

開催時間中はお子様をお預かりする託児の場を設けます。

場 所 延岡市一ヶ岡コミュニティセンター 〒889-0506 宮崎県延岡市南一ヶ岡2丁目17-1

参加の方は右のQRコードを読み込んでお申し込みください。▶

お申し込み締切：9月26日(木)

お問い合わせ 延岡市子ども保育課
電話：0982-22-7017 メール：jidoh@city.nobeoka.miyazaki.jp



第一弾ワークショップチラシ

4-2 第二弾ワークショップ

(1) 概要

施設の素案4案を模型を使って提示しながら、施設の利用、周辺への影響、施設の運営など、より具体的な内容まで意見交換を行いながら市民ニーズを調査しました。

■第一部 参加者 16名

■第二部 参加者 12名（地域住民）

コーディネーター：2名

(2) 主な意見

- ・放課後や子育て中の家族は、公園やえんキッズを利用しており、雨天時はイオンに行く。
 - ・こどもの遊び場は年齢別になっていたり、管理者が常駐していると安心。また、保護者が見守れる場所があると良い。
 - ・高齢者クラブの方との交流が楽しいという声もある反面、高齢者はあまりでかけないという意見。
 - ・この施設を避難できる場所にして欲しい。あるいは備蓄品を確保する場所にして欲しい。
 - ・飲食できる場所が欲しい。
 - ・パソコンを使用したり映画を見たりできる空間が欲しい。
 - ・運動場でボール遊び（サッカーなど）や自由に走り回れる場所が欲しい。
- （詳細は巻末資料参照）



第一部



第二部

延岡市南部地域子育て支援施設

第2弾

どんな空間にしよう？親子で考えよう！

参加無料

ワクワクデザイン ワークショップ

午前の部 10:00～11:30 午後の部 13:30～15:00

場所 延岡市一ヶ岡コミュニティセンター

2024 12/1日

目的 延岡市の未来のために！

いま、延岡市では住民の方々の子育て支援のための施設を建てる計画を進めています。これから未来を育んでゆく子どもたちや子育てに奮闘する親子さんたちのため、より住みやすく居心地の良い環境のため施設に必要なものはなにか？ということをお話しします。

ファシリテーターとして、都市デザイン、景観計画、地域開発に関する企画など様々な分野に携わってきたクリエイティブな建築家とともにワークショップを通し、お話ししながらワクワクするアイデアを考えていく、そんな企画です！
どんな施設があればより子育てしやすいか？どんな計画が進んでいるのか？親子で考えてみませんか？
是非お気軽にご参加ください！



前回の様子



※施設イメージ模型

「模型を見ながら親子で計画」

開催

午前の部

12月1日(日) 10:00～11:30

市内全域より募集

午後の部

12月1日(日) 13:30～15:00

地域住民限定募集

開催時間中はお子様をお預かりする託児の場を設けます。

場所 〒889-0506 宮崎県延岡市南一ヶ岡 2丁目 17-1 延岡市一ヶ岡コミュニティセンター

参加方法

参加の方は右のQRコードを読み込んでお申し込みください。

お申し込み締切
11月30日(土) 17時まで



お問い合わせ

延岡市子ども保育課

電話：0982-22-7017

メール：jidoh@city.nobeoka.miyazaki.jp

第二弾ワークショップチラシ

4-3 高校生ワークショップ

(1) 概要

検討委員会において、アンケートなどを通しての高校生のニーズ調査が不十分であるとの指摘を受けてワークショップを実施しました。施設の素案4案、敷地模型などを使いながら日常の高校生活や、休日の時間の使い方など高校生ニーズを調査しました。

■延岡工業高校：12月6日 14:15 から 50 分間 生活文化科3年生 20 名参加

■聖心ウルスラ学園：12月10日 16:40 から 60 分間 2年生 12 名参加

コーディネーター：2名

(2) 主な意見

- ・放課後はコーヒー店や延岡駅、カラオケなどによく行く。
- ・2階にはWi-Fiが欲しい。ネットカフェのような個室空間も良い。
- ・テスト前など勉強ができる場所が少ないため、学習室は広い方が良い。
- ・ボードゲームができる場所が欲しい。
- ・小さい子と遊びたい。(ボランティアの高校生)
- ・映画観賞会やクリスマス会などのイベントをしたい。
- ・駐輪場が少ない。
- ・プラン A のキッズルームと多目的ホールが近いのが良い。学習室は2階で静かな空間の方が良い。

(詳細は巻末資料参照)



何ができるかわからないけど、楽しそう!

誰かの力になりたい!!



第3弾 みんなで建てる!

ワクワクデザイン ワークショップ!

～延岡市南部地域子育て支援施設プロジェクト～

聖心ウルスラ学園高等学校



建築家のお話を聞いてみたい!!



延岡市のプロジェクトを知りたい。

2024 **12/11** (水)

時間 16:40～17:40

場所 聖心ウルスラ学園高等学校

延岡市の未来のために!

いま延岡市では子育て支援施設整備プロジェクトが進行中! みんなが将来延岡市でより、のびのびと生活していくため、環境のため施設に必要なものはなにか?!! ということをお話し合おう! ファシリテーターとして、建築やデザインなど、マルチに携わってきたクリエイティブな建築家とともに話し合おう! アイディアをみんなで考えてみよう! 少しでも気になったら気軽に覗いて見てね!

内容

建築模型を囲んで他都市の事例を見ながら、みんなでお話ししながら計画を作っていきます!



〒889-0506 宮崎県延岡市南一ヶ岡3丁目



小中学生向けワークショップの様子

お問い合わせ

延岡市子ども保育課

電話: 0982-22-7017

メール: jidoh@city.nobeoka.miyazaki.jp

高校生ワークショップチラシ

5 関係者ヒアリング

5-1 関係者ヒアリング

(1) 第一回ヒアリング

参加者：合計5名（近隣小中学校長）

コーディネーター：2名



□内容

質問	回答
先生達の目線から何かご意見などありますか？	・不登校生を受け入れる場所があるのは大変有難いと思いますが、どこまでの受け入れを考えていますか？ →（市）基本構想でのオアシス教室ではなく、外に出られないことが一歩でも外に出ればよいと考えていましたが、今年度学校教育課からも意見をいただき、学習室や会議室などと組み合わせながら学習支援者の配置も想定した上で今後受入れの体制を検討していきたいと思っています。 ・課長からはサテライトにしたい意向を強く感じたので、構想案をしっかりと持っていると思っていました。 →（市）指定管理になる可能性が高いので、不登校生など一部の運営管理は学校と連携しながら更に検討していく必要があるかと思っています。 ・それに関連して、部屋を中に配置すると通路を通るだけで凄いプレッシャーに感じることも沢山いると思うので、相談室と入替で、外からでも出入りできるように目隠しのブロック塀で出入口が見えない方が来やすくなると思います。また、相談部屋が3部屋あるので、真ん中の部屋を支援員の部屋にするなど利用価値を広めた方がよいと思います。部屋の入替は可能ですか？ →（KDK）はい、問題ないです。 →（市）粕屋の事例でも、プライバシーを配慮したブロック塀がありました。そういう工夫をしたいと思います。相談室は相談がない時は、学習室やボランティアが使用するなど柔軟な使い方を想定しています。 ・支援員の配置は一人の場合、相談室の運営は警備員になるのですか？ →（市）粕屋の事例では施設自体は福祉課による運営でしたが、その分だけ教育委員会指導課になります。 ・不登校のこどもに対して学校と福祉の考え方が違うので、サテライトにするのか、福祉的な支援をするのか、意見交換が必要だと思います。
2階をこどもの第3の居場所として想定していますが、一ヶ岡小学校以外のこども達は平日でも利用すると思いますか？	・名水以外は割と行けるとしています。

最近の小学生の放課後の過ごし方はどんな感じですか？どこに行きますか？	・児童クラブに行くのが多いです。近所の公園。あと、気になるのは不登校のこどもは人が多い場所に抵抗があるので利用するかは疑問に思うところがある。静かな場所に設置していることが多い。 →（KDK）委員会では、専門の先生達も様々な考え方があって、静かな場所がよいという意見もあれば、そうじゃないという意見もあります。構成要素は粕屋の事例と似ていますが、そこは事務室の近くにこども達が外から自由に出入りできるような配置でした。 ・粕屋では不登校のこども達は何名位来っていますか？ →（市）粕屋は福岡の隣の町でベッドタウン的な位置付けであり、南部が人口に対して 13%という所から想定して同じ規模感で参考にしています。 ・指定管理にした場合の人員配置と対応はどのように考えますか？ →（市）全部指定管理にするのは難しいので、不登校のこどもに関しては教育委員会に協力をいただきながらと考えています。 →（KDK）運営面では個人情報に関わる管理は行政じゃないと難しい所はありますが、2 階の部屋は退職した保育士さんやお母さん達が運営に携わっていて、ボランティアルームも用意されている。そういうところは民間が携われる余地は十分にあると考えています。勉強部屋や遊び場の指導、清掃業務なども民間に任せられることはできると思います。 ・今のこどもは 8～9 割スマホを持っているので、施設に来て携帯ばかりじゃないかと思います。 →（KDK）地域の方に積極的にかかわってもらえるとよいと思います。 ・ターゲットは子育て世帯だと思うが、持続可能な運営をするためには幅広い世代が利用できる施設にした方がよいと思う。 →（市）昨日ワークショップでも、地域的に高齢者が多いとの意見がありました。 ・一ヶ岡小学校は地域でいうとちょっと弱いので、そういう機能もあると有難い。 →（市）地域の餅つき大会はこの場所で出来るとよいのではとの話がありました。高齢者の方はこどもの遊びの先生としてボランティアに参加していただければと思っています。
学校の授業でこの施設を利用することはありえますか？	・熊本市こども文化会館では色んな公演を開催していて、団体を加えて運営されているのでそういうような中身にしていかないと人は来ないと思います。グラウンドゴルフも併設しているので高齢者も利用している。この施設は、遊具が充実している室内施設として平日でも市内からくると予想しています。小学校に入る前の親にとっても交流しながら勉強できる場所になってほしい。 →（KDK）お母さん達の息抜き場としても、飲食スペースは絶対欲しいとの声がありました。民間のカフェだと絶対採算合わないで、平日の昼間は自由に使用できるようにして、週末或いはイベント時は業者さんが利用するなど考えられる。中庭も一体的に使用できると思います。 ・学校の遠足に利用したいと思いました。こどもは感じさせないと足が向かないと思うので、まず興味を持ってもらうことが大事かと思う。 ・この前、家庭教育学級 PTA が学校の家庭科室で味噌作りしたのですが、設備が古いので今後この施設を利用できればと考えている。更に子育て世代の親も一緒に味噌作りができればよいじゃないかと思います。親自身が利便性を感じると使ってみようという気になるので。そういう計画を組んでいけば利用者も増えていくと思います。 →（KDK）長崎の事例では、遠足の日に急に雨天になった為来館したこどもがいました。大川の事例では、調理室を作ったが頻繁に

	使用することはないとのことです。料理教室よりも自由に使えるキッチンの方が良いかと思います。あとプログラム次第だと思います。 • 南部の生涯学習施設として、学習の機能も加えるともっと人が集まると思います。こども食堂の状況も考えると必要なことも多いのでスペースの貸出も考えられるかと思います。
小学校のPTAの方が参加しているサークルやグループはありますか？（任意団体など）	• 家庭教育学級PTAは20人位で味噌作りをすることはあります。あと、おやじ会。 • 学年リフレクションでは、学年委員長が計画して学年別でこどもと親と一緒に遊ぶことはあります。そういう時にこの施設を使用することもできるかと思います。 • 椎葉村に図書館機能と生涯学習機能の施設があるのですが、図書館の本の分類が変わっていて、テーマに関連した本を紹介したり、生涯学習の面だと木工などのモノ作りなどができる。そういう場所があると面白いじゃないかと思います。 →（KDK）学校でもなく、家でもない、こどもの新しい居場所を考えると、従来の考え方と違ってよいかと思います。 • 工作的なモノがあると子育て世代以外でも平日は利用があるのではないかと思います。 • 運動場は何をしてもよい場所ですか？ →（市）隣地に住宅があるのでネットや壁、塀などを検討しています。広さが限られているのでボール遊びくらいかと予想しています。 • 小学生はサッカーをするので、学校の運動場でも学年を分けて制限をしています。低学年と一緒にするとケガする可能性があるのです。 →（市）運動場の素材も検討中です。 • バasketコートがあると中学生が来ます。 • 遊具は大事。あればこどもが集まる。
他にご要望などありますか？	• 運動場は宮崎中央運動公園のように、遊具の周りにベンチがあって、親達はベンチに座ってお喋りしながら遊んでいることを見守る。そういう運動場の使い方もあると思います。 →（KDK）できるだけ多目的ホールは開放的な使い方が出来て、親は周りで見守るというような雰囲気は作れると思います。テラスは屋根がついているので夏場の水遊びには非常に需要があると聞いています。中庭に霧吹きミストを取り付けば夏場でも遊べると思います。 • テラスも食事ができるスペースが確保していれば良いかと思います。

※KDK:環境デザイン機構の略

(2) 第二回ヒアリング

参加者：合計7名

近隣の保育所・児童クラブ等の代表

コーディネーター：2名



□内容

質問	回答
機能などについてご意見 ありますか？	・検討委員会に参加しているが、5～10年後のことを考えれば小学生、中学生、高校生の意見も聞くべきではないか。特に不登校の問題がすごく気になる。 →（市）昨日のワークショップは地域の方にも参加していただきました。場所としては高齢者が多い地域であり、こどもを真ん中という考えを基に、地域の方にサポートしてもらいながら技術を受け継ぎしていく場として考えています。小中学生のご意見に関しては、アンケートでも親子でご回答するよう呼びかけしています。また、来週には高校生の意見を聞く場を用意しており、計画に反映していきたいと考えています。 →（KDK）不登校のこどもも立ち寄れる場所にしたいと思っているので、設計の段階で検討していきたい。 ・不登校のこどもが一番気になる。部屋が閉鎖的なイメージですが、窓はありますか？ →（KDK）設計の段階で検討していく予定です。閉鎖的の方がよいのと開放的がよいの意見があるため難しい問題だと思っています。 ・不登校のこどもの中でも不登校の理由が様々なので、一つの事例で配置を決めるのは勿体無いと思います。 →（KDK）運営の仕方にもよると思います。平日は利用者が少ないので人と接したくないこどもは2階の部屋を使ってもらうなど柔軟な対応も可能かと思っています。 →（市）検討委員会でも議題が上がっているが、運営の中で対応していけると予想しています。 ・（児童館や幼稚園の）グループで来館した場合、受付は可能ですか？不登校のこどもが来館した場合、管理上は学校に知らせますか？ →（市）はい、できます。不登校のこどもに関しては、教育委員会管内で学習支援員を配置し、不登校のこどもが勉強できる機能も想定しています。 ・ボルダリングは専門家の配置を考えています？ →（KDK）低い場合は小学生低学年までは見てなくても床に大きなマットがあるので落ちても大丈夫です。長崎の事例だと高いので係員を配置する必要がある。取り入れるかどうかはアンケートの結果次第で検討していきます。 ・老人ルームは作らないです？ →（市）子育て支援施設なので、「こどもをまんなかに」という考え方を基に高齢者を含め地域の方と関わりを持ちながら、高齢者にはこどもの見守り役、サポートしていただきたいと考えています。時と場合によって部屋を柔軟な使い方で運営をしていきたいと思っています。 ・水害や防災の避難場として防災設備の設置を考えてほしい。 →（KDK）今まで様々な事例を見ると防災用の倉庫が必要になります。例えば屋根裏を利用して子育てに特化した備蓄なども考えられる。

	・小さい子ども達が遊ぶ場所が多いイメージですが、中高生に特化した遊びはありますか？ →（KDK）多目的ホールというと、粕屋の事例では部活に参加しない子が学習室で勉強したり、ネット遊具の下に卓球台を置いて遊んでいる。福津の事例では、一面鏡張りの部屋でダンスの練習したり、子ども達が自発的にビリヤード台を作って遊んでいる。厳しい制限がなければもっとりした活動ができと思っています。また、畳の部屋では子どもが自由にパズルやボードゲーム遊びをしていて、トイレには子ども達が自由に落書きできるホワイトボードが置いてある。できるだけ学校でもない家でもない第3の居場所になればと思っています。 ・想定の利用ですが寛ぐ時は、玄関に靴を脱いだ方がよいかと思います。コロナなどの伝染病。 →（KDK）粕屋では全館土足で特に問題ない。大川の事例では、小さい子どもを対象にしているので玄関で靴を脱ぎますがそうすると、玄関をかなり広く取らないといけない。今回は対象年齢が0歳～高校生、原則床に近い所だけを上足にし、後は下足の方が使い勝手がいいと判断しているところ。 ・感染症などを考えるとハイハイする乳幼児は大丈夫かなと。 →（市）議論にも出てきましたが、今下足の病院もあるので特に運営上は問題ないと考えている。 ・公募で指定管理者を選定することについて、病後児、不登校の子ども、キッズルームの子ども達もいる中で一番大事なのは人的環境と思います。また、意見交換会ではえんキッズの運営に関する意見もあったので、お母さん達がリフレッシュできる施設を作ってほしいと思います。 →（KDK）粕屋の場合は、キッズルームは保護者が同伴する中、退職された高齢の保育経験者がら名ほど常駐していました。ボランティアの部屋も用意している。また、えんキッズは飲食禁止なので、ここは飲食ができるスペースを設けて自由に使用できる。また週末はイベント時の利用も可能です。 ・軽度認知症の高齢者にも関わりを持っていけたら良いかと思います。 →（KDK）エリアに子ども食堂をしているご高齢の方がいると聞いています。週一でも地域の方が一緒にご飯を食べるなど子ども食堂の拡大版的なことができれば良いかと思います。 ・病後児はゆっくりできるのかが気になる。病室の数はどれくらいですか？ →（市）二部屋を確保したいと考えています。 →（KDK）職員の目が届く範囲で考えるとこのエリアになると思います。デザインや設計段階で検討していきます。 ・トトロ子どもクリニックが今やっていないからすごく困っている。 →（市）この計画はそういう事情も踏まえて検討しているところです。病児の子どもだと看護師を貼り付ける必要があるので、病後児に設定しました。 ・子どもからの意見で、ボール遊びがしたいけど音がうるさいから地域の人に注意されるとのこと。運動場があるのでボール遊びが可能になれば嬉しい。また、施設の対象年齢が0歳～高校生まで幅広いので、小さい子どもがケガしないように競技団体に見てもらうのが良いかと思います。そして競技団体にも補助金が入るのでWin-Winだと思います。 →（KDK）運動場の使い方については意見を踏まえて今後検討していきたいと思います。ボール遊びだけでなく、地域の方のイベントの広場としても活用できるかと思います。 ・自然芝の管理は難しいですか？ →（KDK）そうですね。イニシャルコストは人工芝の方が高いです。福岡の大名小跡地は一面人工芝になっているのですが意外と若者には人気があるみたいです。逆に自然芝は虫が出るので嫌がるみたいです。
--	--

※KDK:環境デザイン機構の略

6 施設立地検討

6-1 最終候補地の再検討

基本構想策定段階では、一ヶ岡団地で進められている市営住宅集約化事業の余剰跡地を施設の候補地として、具体的には一ヶ岡のB、C、D、E団地の4か所を候補地として敷地面積、用途地域、法規制、災害リスク、周辺環境、幹線道路からのアクセスの項目で比較検討した結果、一ヶ岡D団地を敷地候補地としました。

基本計画においては、D団地の敷地で利用できる敷地面積が小さいという懸念があり、再度、C団地と比較検討を行いました。

	一ヶ岡D団地	一ヶ岡C団地	備考
敷地候補地			
基礎データ			
所在地	南一ヶ岡3丁目16番、17番、18番	南一ヶ岡1丁目2番・3番	
用途地域	第一種低層住居専用地域	第一種低層住居専用地域	
敷地面積	約3,000㎡	10,597.15㎡	
容積率	100%	100%	
建ぺい率	50%	50%	
法規制			
高さ制限	あり（10m）	あり（10m）	
日影規制	あり	あり	
高齢者施設	規制なし（老人福祉センター600㎡以下）	規制なし（老人福祉センター600㎡以下）	法規制に関して差はない
防災施設	規制なし（集会所）	規制なし（集会所）	
子育て施設	600㎡以下（児童厚生施設、児童館）	600㎡以下（児童厚生施設、児童館）	
災害リスク			
土砂災害	区域外の為、リスクなし	○ 敷地の一部が特別警戒区域に指定 また、敷地のほとんどが警戒区域に指定	×
津波浸水	敷地の半部程度が浸水リスクあるが、ほとんどが0.3m 浸水深：0.3～6.0m	○ 敷地全体が浸水リスク有り 浸水深：3.0～6.0m	×
施設整備費 （基本構想より）	3億円 （施設整備費）	○ 7億円 （津波対策4億円＋施設整備費3億円）	×
市民アンケートからの視点			
屋外で遊べる空間		○	○
思い切り遊べる場所にしてほしい		○	○
雨の日に遊べる場所		○	○
駐車場を広くとってほしい		△	○
気軽に利用できる		○	○
敷地の特性			
広さ	C団地と比べると狭いが十分に計画可能な広さ	△ D団地と比べると広いが、屋外広場などは広く確保できるが、サッカーや野球などを行える運動場の設置は難しい。	○
駐車場	約40台確保可能	△ 約80台確保可能	○
幹線道路からのアクセス	幹線道路沿い C団地と比べると、一ヶ岡小学校から少し離れるが幹線道路を 通らず安全にアクセスできる。	○ 幹線道路沿い 一ヶ岡小学校に近いが、アクセスする際、幹線道路を通過する必要がある。	○
利便施設からの距離	小学校、コミュニティーセンター、公園などがある	○ スーパーマーケットや銀行、公園などがある	○
総合評価 ○：5点 △：3点 ×：0点	54	45	

(1) 災害リスク（土砂災害/津波浸水）

「市民の安全確保」の観点から災害リスクのある敷地に公共施設を建てることはできません。

また、安全性の高い候補地がある状況で、災害リスクを避けるために一ヶ岡 C 団地を盛土等の処置をするために、公費（想定4億円）を投じる理由が見つかりません。

(2) 敷地の規模（広さ）

敷地が広いメリットとしては駐車場台数や広大な屋外スペースの確保、大規模施設の建設が可能といった点ではありますが、必要な駐車場台数や施設の規模、事業費から考えても一ヶ岡 D 団地の敷地面積で十分と考えられます。

それぞれの敷地において、検討したシナリオは下記の通りです。

【一ヶ岡 D 団地（敷地面積約 3000 m²）】

シナリオ A	
子育て支援施設面積	600 m ² （1 階建てと仮定）
駐車場	1400 m ² 、約 40 台
広場	700 m ²
歩道など	300 m ²
事業費	3 億円（施設整備費のみ）
このシナリオの場合、施設規模が妥当かどうか、小規模すぎないかが問われる。	

シナリオ B	
子育て支援施設面積	1200 m ² （2 階建てと仮定し、建築面積 600 m ² とする。）
駐車場	1400 m ² 、約 40 台
広場	700 m ²
歩道など	300 m ²
事業費	6 億円（施設整備費のみ）
このシナリオの場合、事業費と広場の大きさが妥当であるか問われる。 面積が 600 m ² を超えるため、用途変更の手続きが必要。	

【一ヶ岡 C 団地（敷地面積約 10,000 m²）】

シナリオ A	
子育て支援施設面積	600 m ² （1 階建てと仮定）
駐車場	4000 m ² 、80 台
広場	4400 m ²
歩道など	1000 m ²
事業費	7 億円（施設整備費 3 億円＋津波対策 4 億円）
このシナリオでは、敷地の広さのメリットは駐車場と広場の確保であるが、追加事業費を投じての、その必然性が問われる。	

シナリオ B	
子育て支援施設面積	1200 m ² （1 階建てと仮定）
駐車場	4000 m ² 、80 台
広場	3800 m ²
歩道など	1000 m ²
事業費	10 億円（施設整備費 6 億円＋津波対策 4 億円）
このシナリオでは、敷地の広さのメリットは大規模な施設建設が可能である点であるが、同時に事業費が膨らむ。その妥当性が問われる。 面積が 600 m ² を超えるため、用途変更の手続きが必要。	

(3) 駐車場の妥当な台数

駐車場は、台数が多ければいいというものではなく、平日の利用者は、主に乳幼児と保護者であり最大 40 台は妥当性があります。(大川市子育て支援総合施設 27 台)

また、休日に施設の一部を開放したとしても、保護者にとっては他の選択肢(他施設、運動施設など)があり、必ずしも利用が増えるものではなく、中学生や高校生に関しては、基本的に自転車での利用が想定されるため、駐輪場が確保できれば十分と考えられます。

(4) 屋外スペースの規模

広い屋外スペースは、必ずしも必要ではなく、0 歳から 18 歳が使用する施設ですが、類似施設の視察の結果、乳幼児～小学校低学年が、最も利用すると考えられます。

この年代はかけっこや鬼ごっこ(ごっこ遊び)、あるいは砂場遊びなど、大きな屋外スペースを必要としませんが、施設と広場の一体的な利用をすることで広く使用することが可能で、小学校高学年から中高生になればスポーツが主体であり、主に学校のグラウンドや競技場が使われます。

したがって、広い屋外スペースの必要性はなく、むしろ酷暑や雨天時対策として「全天候型室内スペース」の要望が高くなっています。

例) 少年サッカー：コートサイズ $50\text{m} \times 68\text{m} = 3400 \text{ m}^2$

(5) 施設の規模

一ヶ岡 C 団地及び一ヶ岡 D 団地の場合、法的制限などをクリアしなければなりませんが、想定される施設規模を事例などから精査して、求められる規模を算出し、その結果より施設規模が決まります。また、利用者の想定や他事例の分析などから最適規模を確定し、適切な事業費が見込まれる一ヶ岡 D 団地での最大の規模確保を検討するのが妥当と思われます。

決定事項

基本計画では、D 団地を施設の敷地候補として検討します。

6-2 市営住宅 D 団地の一部を敷地とする場合の検討課題

D 団地を最終候補とした場合、以下のような課題があり、それぞれの課題に対して検討を行いました。

(1) 敷地内への動線（入口の場所等）

敷地南側からの動線とする場合、幹線道路に右折専用道路をつくり安全確保を行う必要があります。

市営住宅側の東からの動線とする場合、市営住宅の計画との調整が必要となるが、安全性は高いと考えられます。

(2) 周辺住宅への影響（子育て施設と住宅環境）

こどもの声や活動音を完全に遮るのは難しいが、保育所や認定こども園、幼稚園のように常に物音が聞こえてくる施設ではなく、子育て支援施設の機能を住民説明会などで十分に理解していただくよう説明を行います。

子育て世帯の市営住宅の位置などを含め、建替事業とも調整しながら、影響が最小限となる配置も検討します。

(3) ごく一部の津波浸水（30 cm未満の浸水想定）

建物のフロアレベルを 30 cm 以上とし床上浸水しないよう配慮します。

また、フロアレベルを上げるのに、盛土高さや基礎部分の作りが変わることで工事費に差がでます。適切なフロアレベルは、ユニバーサルデザイン及び工事費にも配慮し決定します。

(4) 法規制（子育て施設 600 m²以下、高さ 10m 等）

これからの検討及び類似施設の視察を踏まえ、施設の規模を決定していきますが、600 m²以上となる可能性が高く、その場合、住民説明会を行い建築審査会の同意が必要となります。

高さに関しては、2 階までであれば、高さ 10m 以下とすることが可能です。

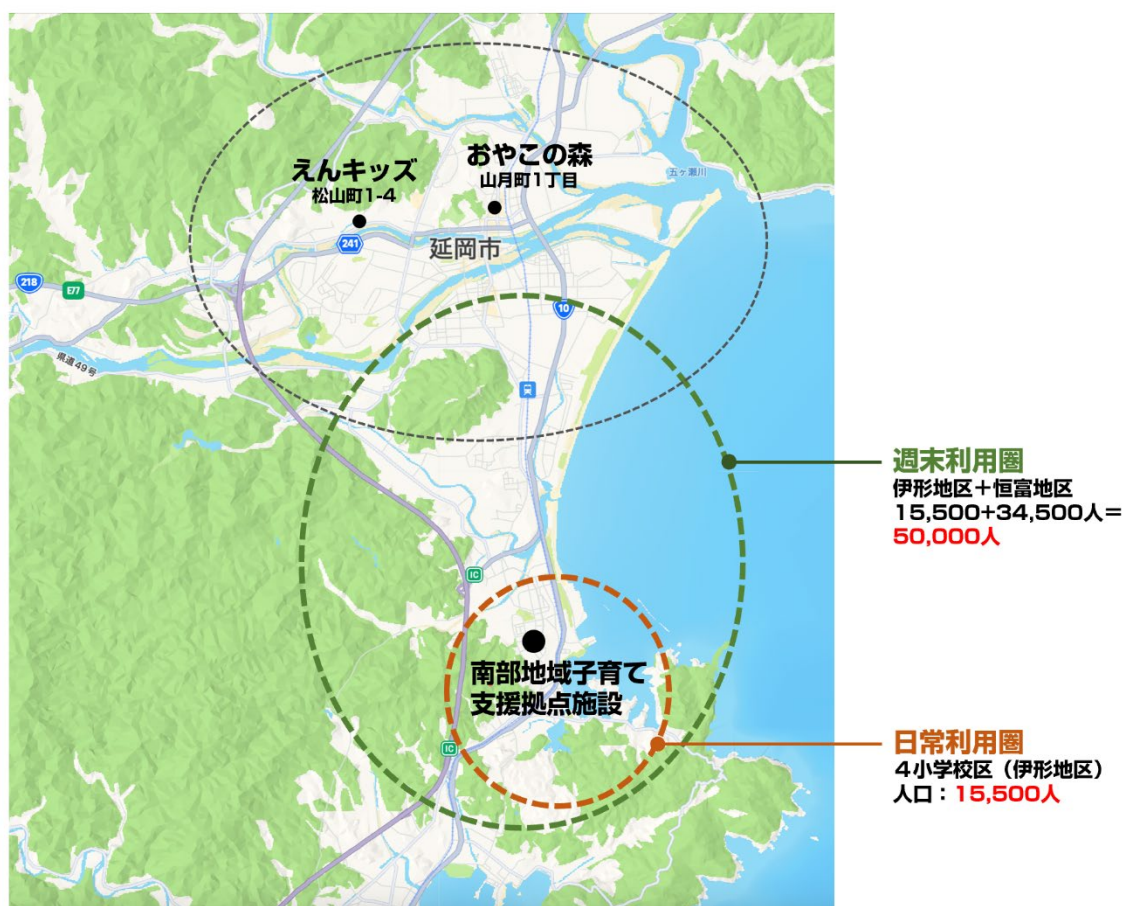


6-3 利用者圏域の検討・設定

施設の規模を検討するに際し、その利用者が住む圏域を想定する必要があり、基本構想では南部地域の人口としては、市総人口の約 13.1%で、0～14 歳の人口は 1,862 人で、市全体の約 13.2%と想定となっています。

一ヶ岡 D 団地を施設立地として、この施設の恒常的（平日）利用者は小学校 4 校（一ヶ岡小学校、伊形小学校、土々呂小学校、名水小学校）中学校 1 校（土々呂中学校）がある伊形地区で、人口約 15,500 人であり、週末や祝日などの非日常的利用は、愛宕山南の恒富地区を含め約 50,000 人の利用圏域が想定されます。

この人口規模は、先進事例として視察した、福津市（人口約 7 万人）、粕屋町（人口約 4 万 9 千人）、大川市（人口約 3 万 3 千人）と類似しており、その施設規模の参照は、合理的と判断されます。



利用者想定圏域

7 基本与件の整理

7-1 導入機能の検討

基本構想の基本的な考え方を踏まえ、当施設においては、「こどもをまんなか」に、多世代の交流が生まれる居場所を創出することで、誰もが気軽に「つどい」、遊び、微笑み、安らぐことで「つながり」、子育てを取り巻く支援の輪を「はぐくむ」、子育て支援拠点施設「こどもの居場所（キチ）づくり」を目指すものであり、その施設機能は大きく3つの機能から構成されます。

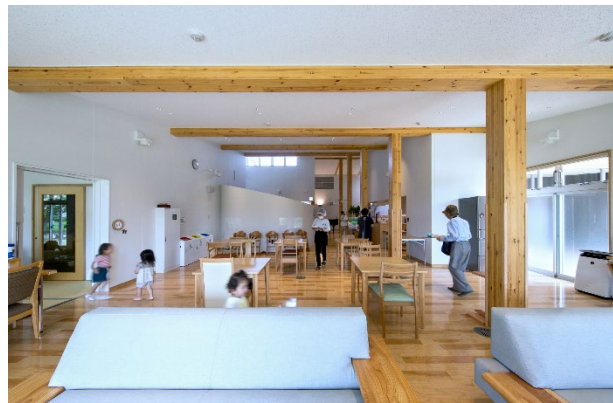
（1）子育て支援機能

キッズルームをはじめとする遊びやふれあいを通じた機能や一時預かりや病後児保育、ワークルーム、飲食スペースなどの子育てを支援するための機能を整備します。



（2）地域交流機能

地域交流機能は、乳幼児、小中高生、子育て世代、高齢者の異なる世代の交流を促進し、各活動やイベントをサポートする機能を有します。単一の利用者ではなく、多世代が多様な形で利用可能な諸室を整備します。



(3) こどもの第三の居場所

主に中高生が自由に利用できる学習室や図書スペースなど学校や自宅とは異なる空間造りを行います。



7-2 施設機能の必要面積の検討

基本構想を基に類似施設やワークショップ、ヒアリングの意見を踏まえ、導入すべき機能を整理すると、1,500 m²前後の床面積が必要となります。（先進事例施設の面積表は検討資料参照）

面積表

設備	必要部屋数	想定面積 (m ²)	サービス内容
事務室 (休憩室・更衣室込み)	1	90	子育て情報やイベント情報の発信と提供
玄関・ロビー廻り	1	50	
病後児保育室 (玄関、トイレ、調理作業場込み)	2	40	病後児保育事業
一時預かり保育室	1	40	一時預かり事業
授乳室・調乳室	2	25	
トイレ・手洗い場・乳児用シャワー・沐浴等	3	84 (34×2 セット、 16×1 セット)	
静養室	2	20 (10×2 部屋) ※相談室を利用することも可能	・子育ての不安や悩みを相談でき、ほっとできる場 ・貧困、ヤングケアラー、ひとり親、母子保護世帯の支援 ・障がい児や医療的ケア児支援
相談室	3	48 (16×3部屋)	・母子保健、療育、発達相談、ネグレクト等への相談、支援 ・専門員の配置による相談しやすい環境づくりや保護者カウンセリングの実施 ・貧困、ヤングケアラー、ひとり親、母子保護世帯の支援 ・障がい児や医療的ケア児支援 ・障がい者等の雇用による相談体制づくり ・子育ての不安や悩みを相談でき、ほっとできる場 ・こども達が気軽に相談できる場づくり
多目的ホール	1	200	・父親学級、パパサロンなど父親の育児参加促進 ・保護者が語らい、学べる場づくり ・高齢者との交流など異年齢交流とのコミュニティの充実 ・子育てサークルの充実 ・音楽等を通じた文化・芸術と触れ合う場づくり ・未就学児の親子や小学生が集い、遊び、飲食の場 ・将来のために考えるきっかけとなるような場 ・好きなこと・面白いことをやっている人との出会い ・高齢者との交流による昔の遊び ・ゲーム、スマホでない遊び方を教えるしくみ
キッズルーム	1	140	未就学児の親子や小学生が集い、遊び、飲食の場
図書・学習室	1	100	・図書館の設置・充実

			・小中高校生の学習の場づくり ・不登校生などが気軽に過ごせる場づくり
不登校生用ルーム	1	45	不登校生などが気軽に過ごせる場づくり
ワークルーム・ミーティングルーム	1	80	・楽器遊び、工作遊び、大きな鏡のある部屋 ・不登校生などが気軽に過ごせる場づくり ・学校の難しい課題・宿題を教えてくれる場づくり ・未就学児の親子や小学生が集い、遊び、飲食の場
会議室・研修室	1	80	地域団体や外部単体の利用も想定した会議室
調理室	1	25	親子調理や離乳食教室ができる場（調理室）づくり
飲食スペース	1	70	未就学児の親子や小学生が集い、遊び、飲食の場
倉庫・備蓄倉庫		80	多目的ホールやキッズルームなど必要な部屋に設置
廊下・EV・階段・その他		250	
室内合計面積（㎡）		1,467 ㎡	

〈参考〉

参考室	面積（㎡）	備考
小学校の教室	64	35人教室
バドミントン	69.4	シングルスコート
バドミントン	81.7	ダブルスコート
ミニバレー	54.9	
バレーボール	162	

決定事項

施設面積は 1,500 ㎡程度とします。

7-3 諸室ゾーニング検討

(1) 年代と空間構成

こどもたちは、その年代によって体格や興味、活動などが異なります。安全、快適性の確保などの観点から、その年代ごとに適した活動の場を用意しなければなりません。

この施設では、年代ごとに対応した屋内、屋外、静的な活動の場を設けます。

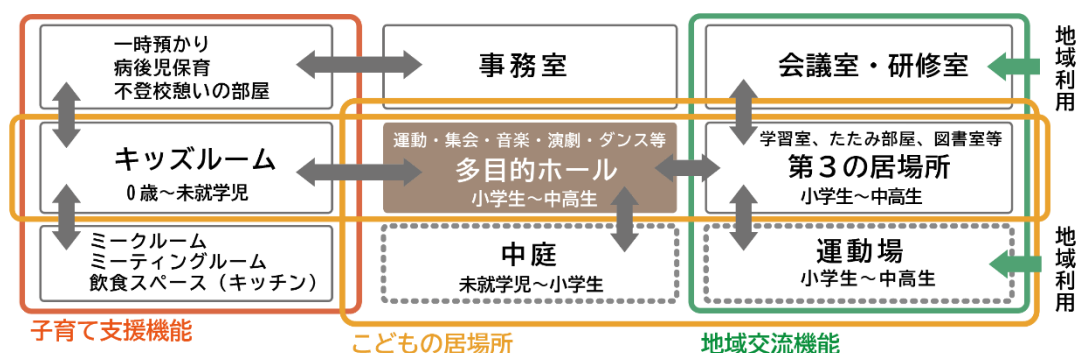
年代と空間構成

年代	0-2歳	3-5歳	小学生	中学生・高校生
特徴	他年代と区別した領域 保護者同伴の活動 動と静が一体化した空間 自然素材の空間 全身運動の空間 親との交流空間に隣接	ごっこ遊びと冒険心 屋外と室内が一体化した空間 視線が届く範囲に親の存在 立体的な仕掛け空間	体全体を使った立体的な遊び空間 自らの創意工夫のスペース 室内、屋外がつながった空間 親も参加できる遊具 親が自由に過ごせる隣接空間	友人との交流空間 規則に縛られない行動 創意工夫が活かされる空間 個人的スペースの確保 保護者が介入しないスペース
屋内活動	キッズルーム	キッズルーム	多目的ホール	多目的ホール ※主に小学生が利用していない夕方以降の利用
屋外活動	テラス (屋根付き)	中庭(人工芝) + 運動場	運動場	
静的活動	キッズルーム + ワークスペース		学習室 + 図書 + たたみの部屋	

(2) ゾーニング

施設内の、子育て支援機能、こどもの居場所、地域交流の3つのゾーンは、各空間が独自性を保ちながらも連携し、互いに補完しながら機能します。

また、こどもの様々な活動を行う多目的ホールが3つの機能を繋ぎ、象徴的で中心的な役割を果たします。



8 配置計画

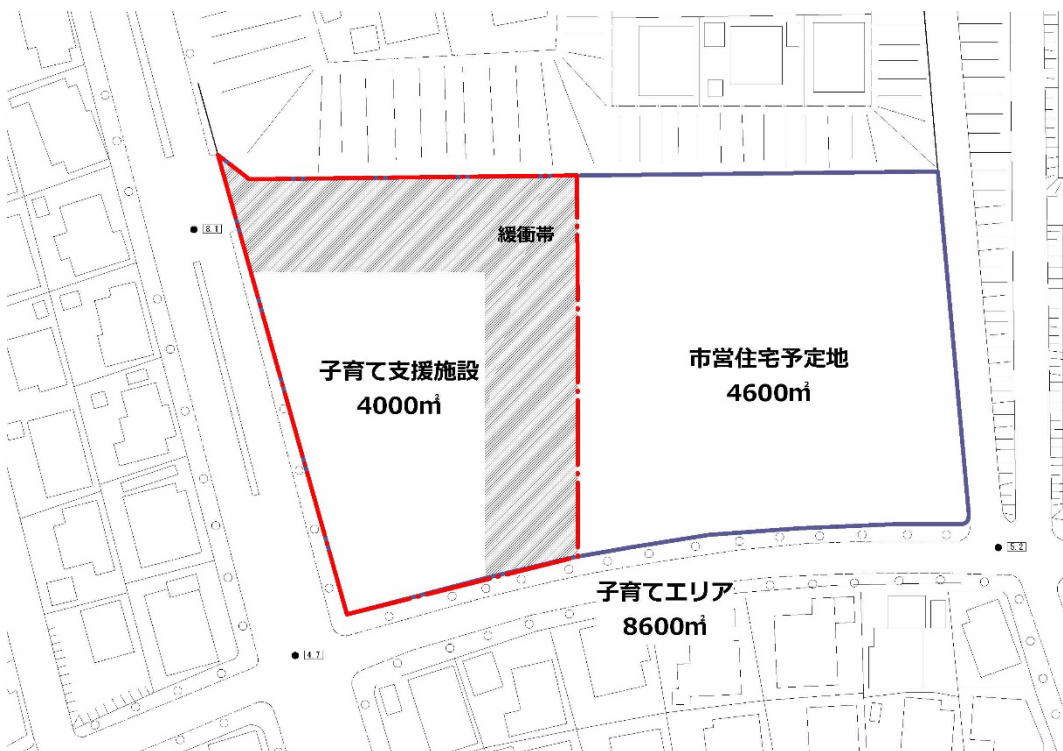
8-1 敷地可能性検討

基本構想策定においては、施設の敷地規模として 3,000 m²を想定していましたが、基本計画策定におけるワークショップやヒアリング等を通じて、以下の課題への検討が必要となりました。

- ① 駐車場の最大限の確保と、イベントや催事の際の臨時駐車場の確保
- ② 高学年のこどもたちの屋外運動スペースの確保
- ③ 建設予定の北側市営住宅との緩衝帯の確保

これらを踏まえるとともに、子育て世帯にとって居住と子育て支援施設が併設した「子育てエリア」を創出して、子育てに優しいまちづくりにもつながるため、市営住宅 D 団地の南街区（8,600 m²）における市営住宅については、子育て世帯優先住宅として整備し、子育て施設との間に駐車場や屋外運動場による緩衝帯を配置するため、子育て施設の敷地を約 4,000 m²とします。

また、駐車場に関しては、常時 50 台程度を確保し、催事・イベント開催時は屋外運動場も臨時駐車場（約 20 台）としての利用も想定し、さらに不足する場合は、市営住宅 D 団地北街区に予定される駐車場や、近隣のコミュニティセンター等の駐車場の利用も想定します。



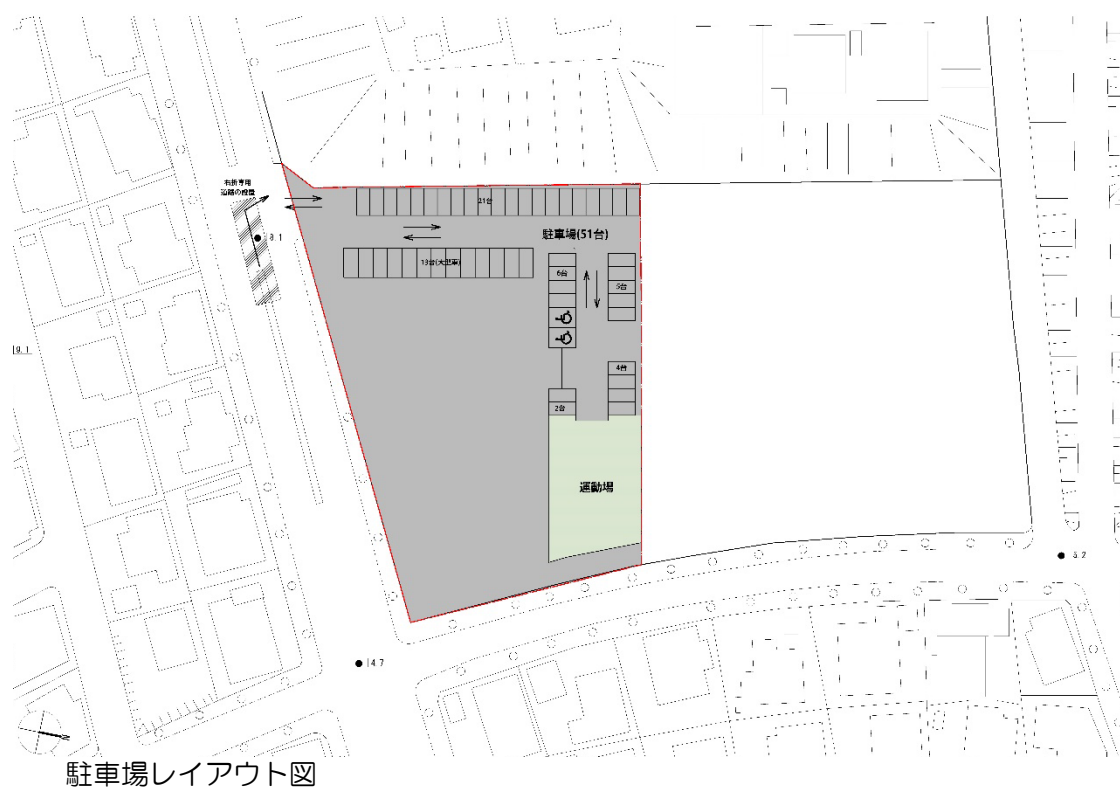
子育てエリア配置計画図

8-2 駐車場レイアウト検討

基本構想策定段階では、施設の駐車場を40台と想定しており、先進事例では、その立地において、他の周辺駐車場の利用が想定されるなど必ずしも参考にはなりませんが、平日の利用者対応を必要駐車場とし、週末やイベント時の臨時需要における駐車場は、今後整備される市営住宅団地整備の余剰及び計画地から徒歩5分程度の一ヶ岡コミュニティセンター駐車場などの利用も考えられるために、50台のレイアウトで検討しました。

駐車場の出入り口に関しては、既存の南西側の幹線道路からの出入口がありますが、駐車場からの出入りの際の見通しが、西側斜面及び樹木によって遮られ、特に右折の場合の危険性が高く、また、市街地から幹線道路を使って敷地に入る右折の場合、専用右折レーンがなく危険を伴います。

したがって、今後、敷地北側に計画される市営住宅の計画と整合性を取りながら、北側から住宅地を通してアプローチする入口をメインに考え、既存出入口をサブとして位置付けています。



運動場の配置に関しては、北側市営住宅との緩衝帯としての機能や、イベント、催事におけるキッチンカーの乗入れなどを想定し、駐車場と隣接した配置としました。

9 施設計画（モデルプラン）

9-1 モデル案作成

(1) A案 (一部2階建)

施設中央に多目的ホールを配置し、2階に学習室、図書室、会議・研修室など学童利用の機能を配置した案

【長所】

- ・キッズルーム・多目的ホールを使って様々な年代のこどもが1階で遊べます。
- ・保護者は、ワークルーム／ミーティングルームや飲食スペースで中庭（こどもの遊び場）を見ながら交流ができます。
- ・使用する時間帯、年代が違う学童のスペースが2階です。

【短所】

- ・ワークルーム／ミーティングルームや飲食スペースが入口から離れています。
- ・2階の学童スペースが事務室から少し離れています。



(2) B案（一部2階建）

多目的ホールを施設東側に配置し、ワークルーム／ミーティングルーム・飲食スペースを中央に配置し、2階に学習室、図書室、会議・研修室など学童利用の機能を配置した案

【長所】

- ・保護者が使う飲食、ワークルーム／ミーティングルームが施設中央にあり、キッズルームと隣接し使いやすい。
- ・上の年齢層が使う多目的ホールが離れていて、明確に分かれています。
- ・使用する時間帯、年代が違う学童のスペースが2階です。

【短所】

- ・多目的ホールがキッズルームと離れていて、兄弟などの遊び場が離れます。
- ・2階の学童スペースが事務室から少し離れています。



(3) C案（一部2階建）

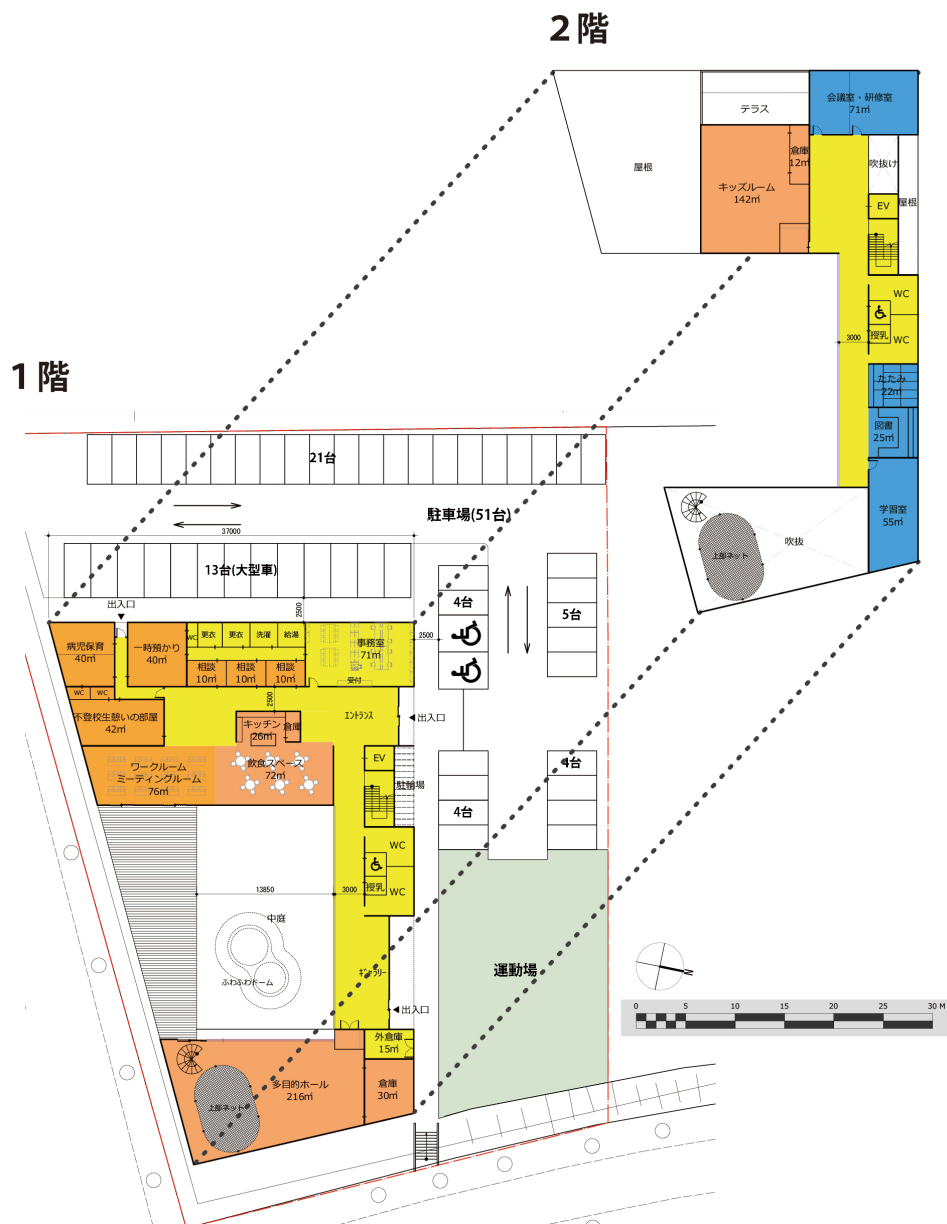
2階にキッズルームや学習室、図書室、たたみの部屋、会議・研修室など学童利用の機能を配置した案

【長所】

- 全ての年代のこどもたちの活動が2階に集約されています。
- 保護者は、ワークルーム／ミーティングルームや飲食スペースで中庭（こどもの遊び場）を見ながら交流ができます。
- 使用する時間帯、年代が違う学童のスペースが2階です。

【短所】

- 平日は、ほぼ2階が主に利用されています。
- 多目的ホールが2階の活動と分かれています（距離があります）
- 使用する年代が2階に混在しています。



(4) D案（平屋建）

施設中央にキッズルームに隣接した多目的ホールを配置し、広い中庭を取り囲み、学習室、図書室など学童利用とワークルーム／ミーティングルームなどを配置した案

【長所】

- キッズルーム、多目的ホールを使って様々な年代のこどもが1階で遊べます。
- 保護者は、ワークルーム／ミーティングルームや飲食スペースで中庭（こどもの遊び場）を見ながら交流ができます。
- 活動（遊戯）と静かな活動（学習、講習、交流）などが明確に分かれています。

【短所】

- 平家で、廊下が長く、遊びと交流機能が離れています。
- 事務室から学習・交流などの部屋が離れています。

1 階

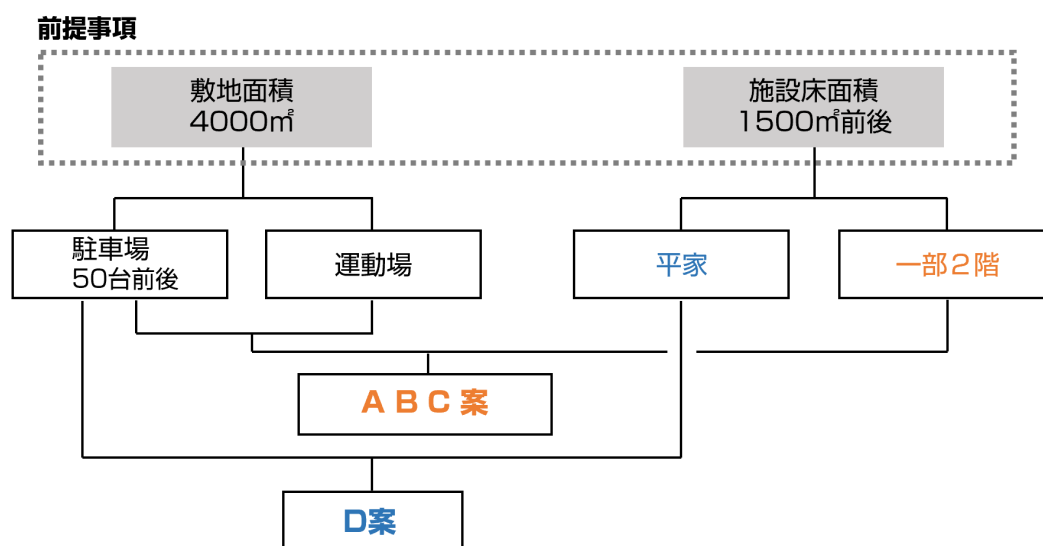


9-2 比較検討

4案についてそれぞれの長所と短所の比較を行い、評価しました。

(1) 敷地形状からの評価

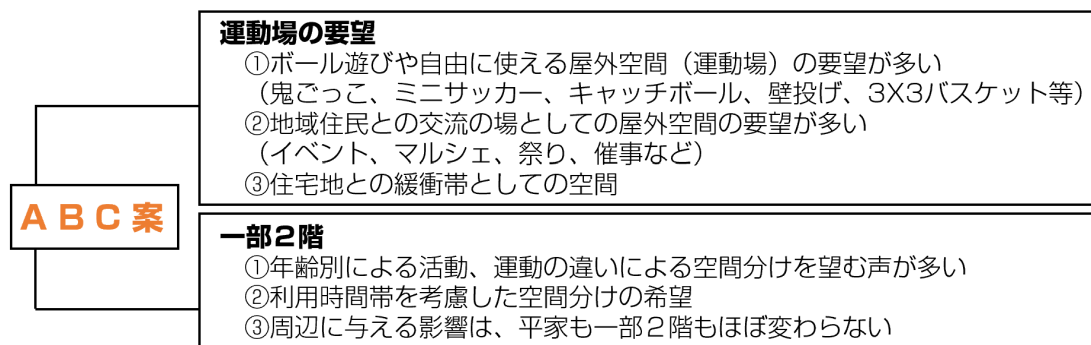
ヒアリングおよびワークショップなどの意見を参照すれば、中高生の屋外での運動場の要望が高く、また、アンケートの結果においても、十分な広さであり必要性を感じる回答が75%ほどありました。したがって、運動場を優先的に配置し、十分な駐車場を確保するためには、一部2階建てのA、B、Cの3案となります。



(2) コンセプトからの評価

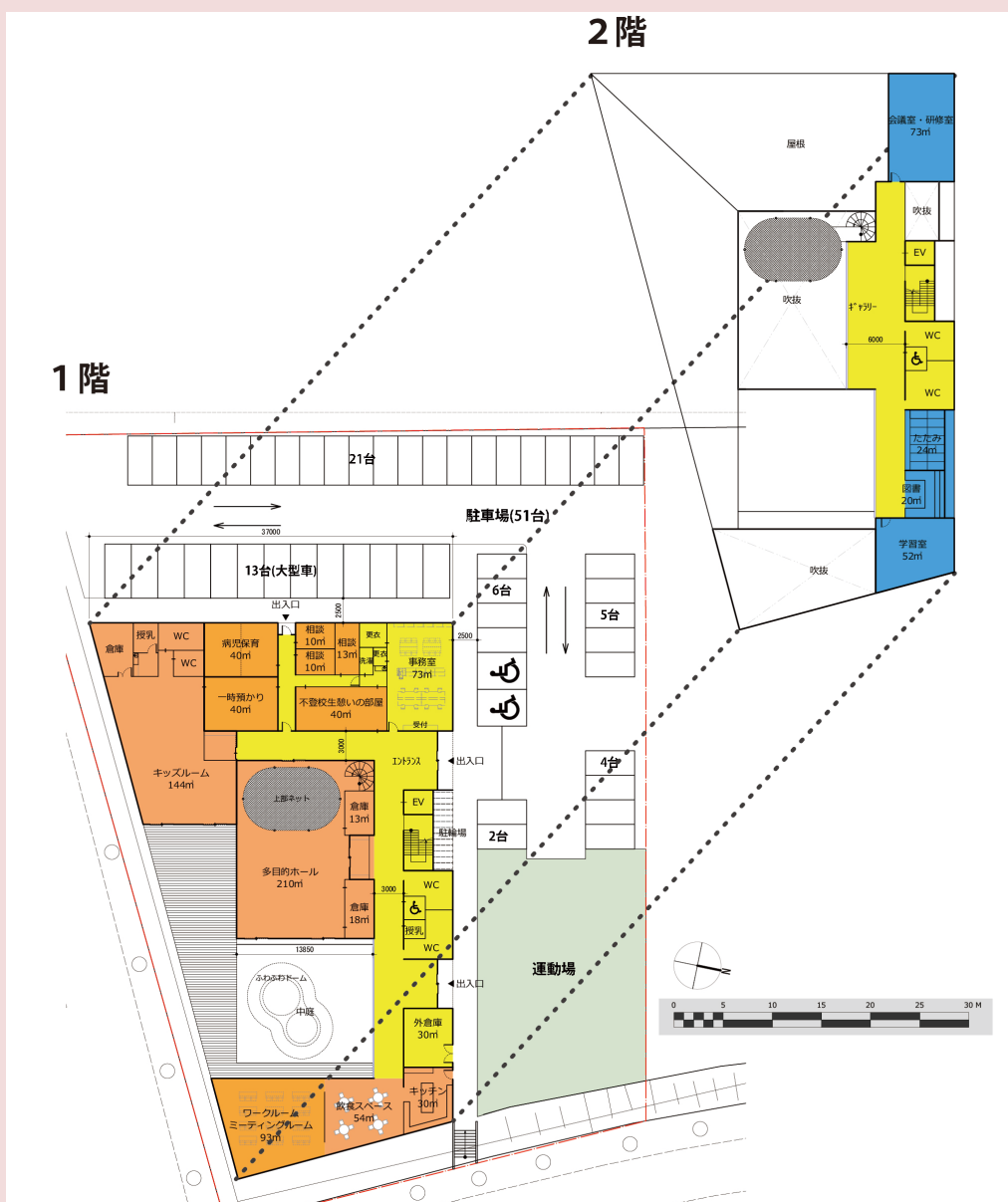
基本構想で示された、「みんなが つどい つながり はぐくむ こどもの居場所 (キチ)づくり」というコンセプトを反映すれば、施設の中央に多目的ホールを配置し、2階に利用年齢が高い、小学校一高校生までの第三の居場所としてのスペースを配置することが合理的だと考えます。

また、ヒアリング、ワークショップでも、利用年代別の空間を明確に離すほうが良いとの意見が多く、またアンケートの結果でも A 案の支持が最も高く全体の 45.1%ありました。



決定事項

この基本計画では、4案の中でA案を最終的な検討案とします。



プランの特徴

施設中央に多目的ホールを配置し、2階に学習室、図書室、会議・研修室など学童利用の機能を配置した案

- ・キッズルーム・多目的ホールを使って様々な年代のこどもが1階で遊べます。
- ・保護者は、ワークルーム／ミーティングルームや飲食スペースで中庭（こどもの遊び場）を見ながら交流ができます。
- ・使用する時間帯、年代が違う学童のスペースが2階です。



ギャラリー

雑談や勉強をできる空間で、多目的ホールの様子を視認できる。

図書

図書室の設置

会議室・研修室

地域団体や外部単体の利用も想定した会議室
空いている時間は学習室として利用

たたみ

囲碁・将棋や読書などができる他、自由に使用できる空間

学習室

- ・小中高校生の学習の場づくり
- ・不登校生などが気軽に過ごせる場づくり

2階平面図 Scale=1:800

一部屋根付きの駐車場

不登校生憩いの部屋

不登校生などが気軽に過ごせる場づくり

キッズルーム

未就学児の親子や小学生が集い、遊び、飲食の場

屋根つきの屋外デッキ

中庭

大型遊具や砂場などの設置が可能な中庭

ワークルーム・ミーティングルーム

- ・楽器遊び、工作遊び、大きな鏡のある部屋
- ・不登校生などが気軽に過ごせる場づくり
- ・学校の難しい課題・宿題を教えてくれる場づくり
- ・未就学児の親子や小学生が集い、遊び、飲食の場

駐車場(51台)

駐車台数51台確保

事務室

子育て情報やイベント情報の発信と提供

相談室（3部屋）

- ・母子保健、療育、発達相談、ネグレクト等への相談、支援
- ・専門員の配置による相談しやすい環境づくりや保護者カウンセリングの実施等
- ・静養室も兼ねる

多目的ホール

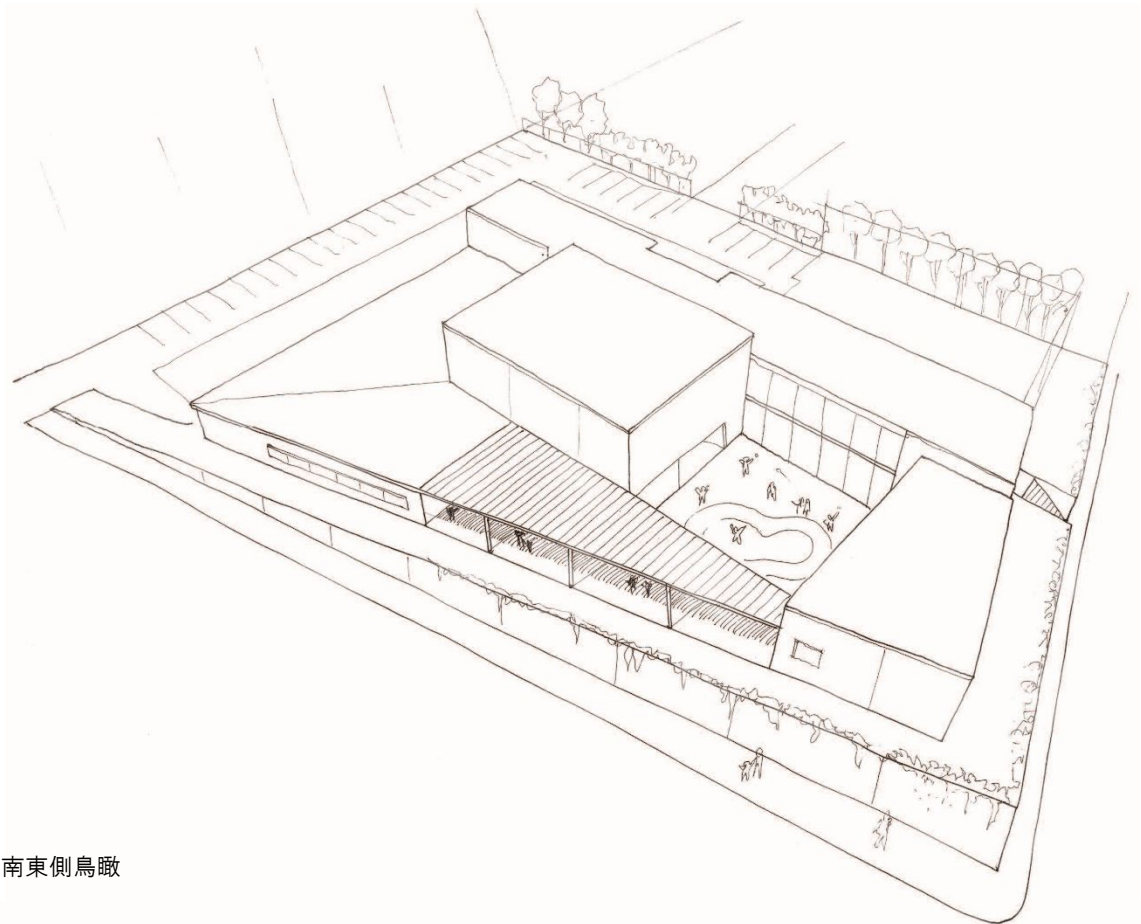
- ・パパサロンなど父親の育児参加促進
- ・保護者が語らい、学べる場づくり
- ・異年齢交流とのコミュニティの充実
- ・文化・芸術と触れ合う場づくりなど

運動場

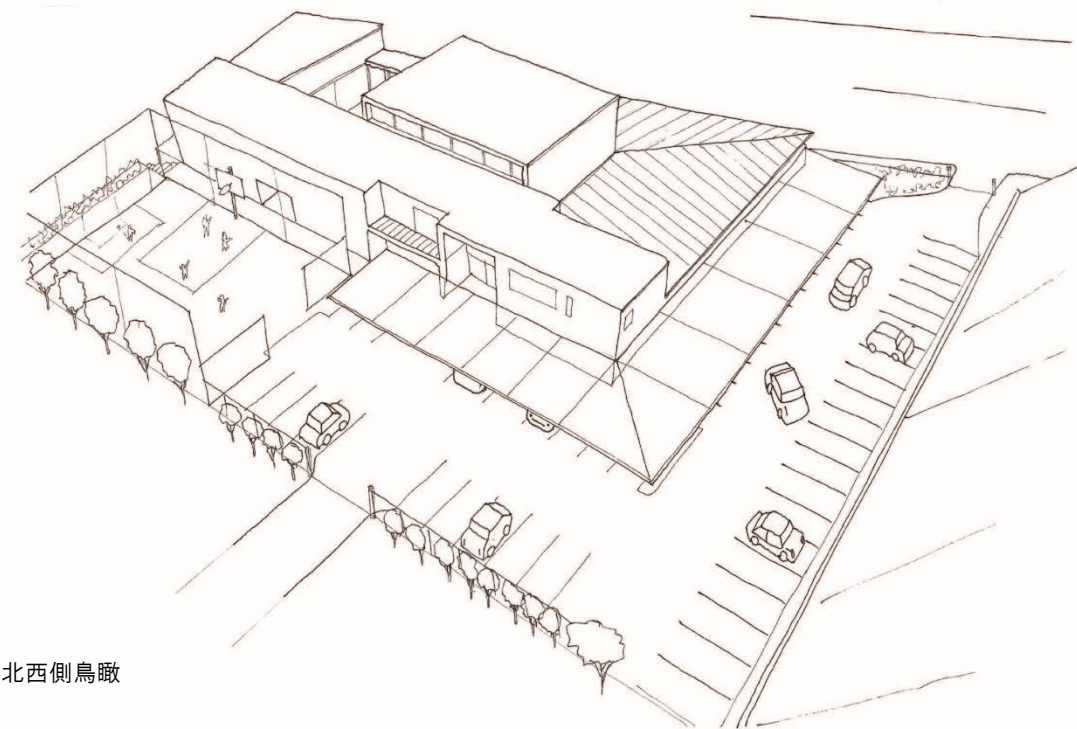
ボール遊びが可能で、臨時駐車場としての機能を合わせもつ運動場

1階平面図 Scale=1:800

9-3 イメージパース



南東側鳥瞰



北西側鳥瞰

9-4 周辺への影響

本施設検討にあたり、主に建設予定の北側市営住宅、及び東側の既存住宅に対する影響を日影、騒音の観点から検討しました。

(1) 日影

この施設は、約3mの高台に、高さ10m以内で計画します。日影の影響を最も受けるのは、敷地東側の住宅地です。その影響を検討するために、冬至（12月20日）の日影図を作成しました。冬至の午後2時から4時にかけて、西に傾いた太陽による計画される施設からの影が伸びています。

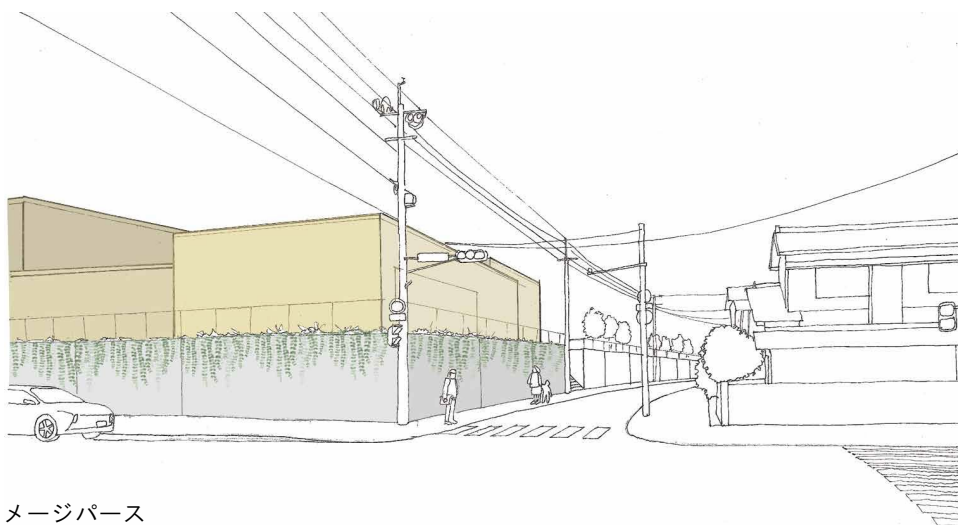
①現状

現在、3mの公営住宅の敷地には、東側に常緑樹が並木形状で植栽されています。この高さは、目測で約4-5mあります。

また、この植栽の位置は、本施設が配置される位置と、ほぼ同じ位置で、しかも施設の高さも4-5m程度と想定されます。



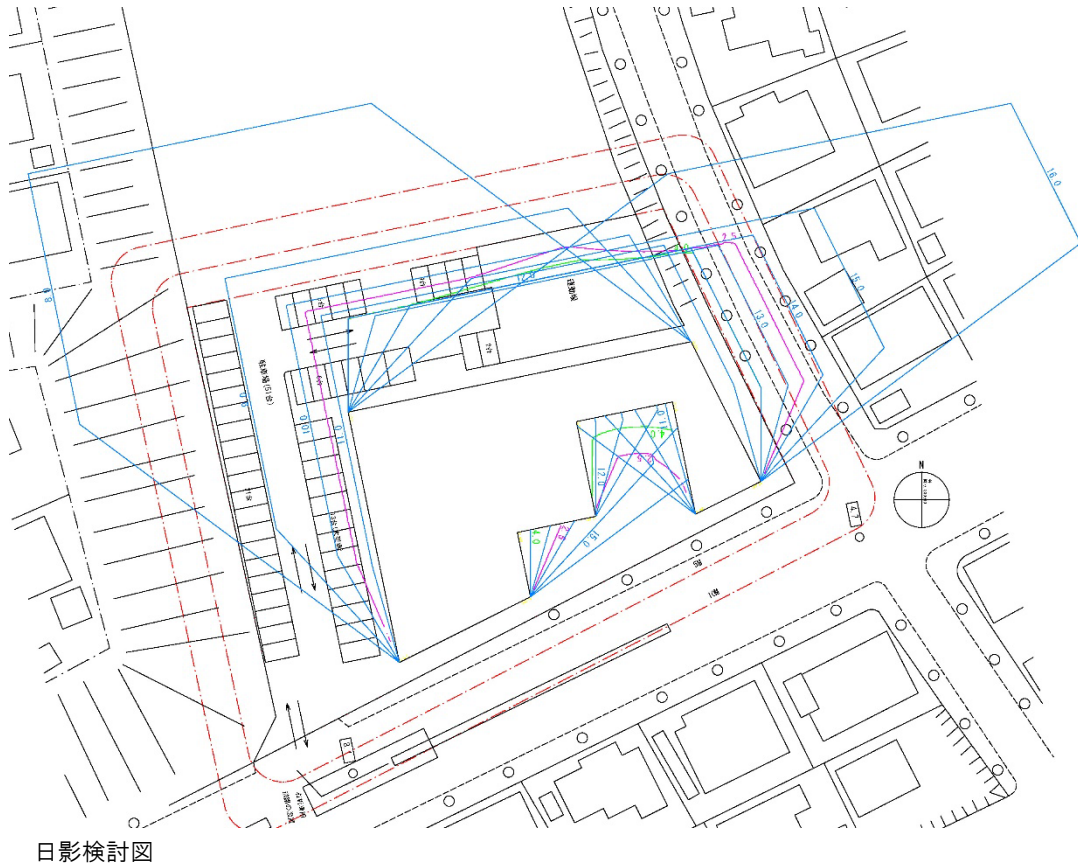
現状



イメージパース

②検討の結果

冬至においては、施設の影が、東側住宅に延びるものの、現状においても、高さ4-5mの常緑樹が影を落としていることから、計画された施設が完成したとしても、影をつくる施設の高さは現状の樹木とほとんど変わらないと考えられており、日影の影響はほぼ現状と変わりないと思われます。



(2) 音の影響

①北側

施設敷地面積を 4,000 m²に拡大したことで、子育て世帯優先市営住宅との間に、約18mの空間ができ、駐車場や屋外運動場により、十分な音に対する緩衝帯を配置します。また、植栽帯などの配置も含め、心理的緩衝帯とすることも検討します。

②東側

施設内の諸室配置計画において、こどもの遊び空間を施設中心部に配置し、東側には、比較的静寂な機能であるワークルーム／ミーティングルーム、学習室などを配置します。

10 諸計画

10-1 関連法規

本計画地には次のような法令が適応されます。これに沿って計画しました。

都市計画区域	市街化区域
用途地域	第一種低層住宅専用地域
建ぺい率／容積率	50% / 100%
高齢者施設	規制なし（老人福祉センター600㎡以下）
防災施設	規制なし（集会所）
子育て施設	600㎡以下（児童厚生施設、児童館）
高さ制限	あり（10m）
道路斜線／隣地斜線／北側斜線	あり／なし／あり
日影規制	あり 4.0h(5m ライン)、2.5h(10mライン)
都市計画法	なし
開発許可	あり ※協議を行う
防火地域	なし

10-2 構造計画

本計画の構造設計では、全体の施設規模、大空間の有無、資材の入手、コストなどを総合的に勘案して、最適な構造を選定することが重要です。

施設の機能、こどもがメインに使う施設であるといった視点から本計画の構造は、国交省が進める公共建築における木造推進及び市産材等の利用推進などを踏まえ、また温暖化対策の一環としての木材利用の観点からも、木造が合理的と判断します。

その理由としては、

- ①基本計画における素案は、多目的ホールが約 14m 程度のスパンになりますが、在来工法で集成材またはトラス構造を採用することで、構築可能な架構であること。
- ②木造工法であれば、地元工務店でも施工可能であり、地元還元が図れること。
- ③こどもの施設であり、木の素材感、質感などが機能とマッチしていること。
などが挙げられます。

次の基本設計段階においては、木造を基本としながら、RC 造(鉄筋コンクリート)などとの併用に関しても検討を加え、最終的な構造を確定するものとします。

10-3 設備計画

本市がSDGs 未来都市に、また本施設が位置する一ヶ岡団地が脱炭素先行地域に選定されていることで、太陽光発電などの再生可能エネルギーや省エネルギー設備の率先的な導入を図る必要があります。

さらに、本市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）において、新築公共施設のZEB化を取組みの重点項目として掲げており、市内事業所へ向けたモデルとしても位置付け、ZEBの考え方を取り入れた設備設計を行います。

基本計画では、建物の方位を考慮し、夏季においては軒先を伸ばした開口部(窓)からの直射日光を避け、冬季においては日照を取り入れる配置を行います。また、可能な限り、日中は、内部(多目的ホールなど)に間接光を取り入れ、消費電力の節減を図ります。また、効果的にルーバーなどを配置し、直射日光をコントロールします。

キッズルームや多目的ホールなどでは、床面から1.5m高までのこどもの活動域のみを空調できる効率良い空調システムの導入を図ります。

基本的には、徹底した省エネを目指し、同時に太陽光発電、地中熱利用などの創エネも考慮した基本設計を行うものとします。

高校生ワークショップ等でも希望の多かったWi-Fiの導入も検討します。

また、施設が位置する一ヶ岡小学校では、こどもたちが「私たちが目指す未来のスマートシティーケ岡」として脱炭素発表会を行い、様々な提案を行っています。

その中から、

①CO₂吸収量が高いオリーブの木の植栽

②電気自動車の充電スポット設置

③人感センサーの導入

④潜いで電気が溜まるブランコ

などの提案は、「教育」効果として、本施設の設備設計では考慮するものとします。

10-4 外構計画

本施設周辺の外構については、以下のような方針で整備します。

■運動場

車の乗入れを前提とし、同時に運動時の快適性、クッション性を考慮し、カラーアスファルト、アンツーカー舗装などを候補とし、基本設計で確定します。

また、運動場でのボール遊びを想定し、周囲に高さ4m 程度の防球フェンスやコンクリート壁を設置します。

■中庭

乳幼児、低学年の利用を想定し人工芝や土遊びができる空間を検討します。同時に、猛暑対策として仮設の日除けテント、ミスト（細かい霧）噴霧器などを軒先に設置し暑さ対策を講じます。

■駐車場

各駐車スペースは 2.5m x 5m を基準とし、車路については安全性確保の視点から 6m の幅を確保し、また、入口近くに障がい者用の駐車スペース2台分を確保します。

さらに施設に隣接する駐車スペースは屋根を設け、雨天時の利便性を高めます。

■擁壁

敷地周辺に新たに設置される高さ3m の擁壁について、擁壁上部からの緑化、あるいは部分的に壁面緑化を行い、圧迫感を和らげる設計を行います。

■緩衝緑地

本敷地北側の、将来計画される市営住宅との境は、緩衝緑地として中低木を植栽し、同時に高さ1m 程度のフェンスを設置し、安全性を確保します。

全ての外構エリアにおいてユニバーサルデザインを反映し、斜路、点字ブロック、適切な案内サイン、十分な照度を確保した屋外照明などを設置します。

10-5 整備概算計画

現時点では、計画レベルの計画案においての建設費の算出は、概算にならざるを得ません。直近の事例、また本施設の立地などを考慮して概算を算出しています。

(1) 工事概算に関連（影響）する要因

- ①敷地は、切土（丘陵地を造成）であり、地盤は良好で、既存資料（市営住宅建設）から直接基礎で対応できると判断された場合、工事費の削減につながります。
- ②多目的ホールなど大空間を除き（集成材等）在来工法で建設が可能な構造であり、地元工務店での施工が可能と考えられます。
- ③いまだに建築物価の高騰が続き、同時に建設業界の働き方改革が進行中であり、労務費の高騰につながっています。したがって、基本・実施設計が終了時点における最新の状況を踏まえ、工事費の算出を改めて行う必要があります。

(2) 本施設概算（以下の数字はあくまで試算にすぎず今後変動する。）

■建築（表にする予定）

①施設本体（1500㎡：455坪）	直接工事	550,000千円
	共通費	120,000千円
	ZEB性能向上	100,000千円
②デッキエリア（150㎡）		15,000千円
③駐車場屋根（600㎡）		20,000千円

■ランドスケープ（外構）

①駐車場（1600㎡：照明、サイン、フェンス、植栽等）	25,000千円
②中庭（170㎡：人工芝等）	2,000千円
③運動場（400㎡：防球フェンス、グラウンドカバー、植栽等）	10,000千円

■土木

①擁壁（高さ3m、長さ120m）	20,000千円
------------------	----------

■遊具+家具

大型遊具（ネット遊具／ボルダリング／ふわふわドーム）	80,000千円
その他遊具+家具	40,000千円

総工事費	982,000千円
------	-----------

注)

- ①この概算は計画段階におけるもので、基本設計終了時に再度検討し、精度を高めていきます。
- ②今後の建築物価の変動は予測がつかないので、上昇の際は、その上げ幅を反映した概算とします。

③脱炭素先行地域での整備であることに鑑み、ZEB（Net Zero Energy Building）として整備する場合には概ね1億円程度かかると見込まれる一方、例えば木造化・木質化の場合は森林環境譲与税が活用できるなど市の財政負担軽減策もさらに検討します。

（3）直近の類似事例【参考】

①某交流施設（場所：広島県K町 令和6年度実施設計）

- 建物構造：木造平屋
- 延床面積：2,230 m²
- 施設内容：多目的ホール、カフェレストラン、物販スペース、体験コーナー、事務室、会議室、創作デッキ、工房、多目的スペース、作業室、ミーティングスペース、中庭、トイレ他
- 建設工事費：706,000 千円

②子育て支援総合施設：モッカランド（場所：福岡県大川市 令和元年度実施設計）

- 建物構造：木造平屋
- 延床面積：1,664.04 m²
- 施設内容：プレイルーム1～3、カフェ兼ワーキングスペース、調理室、親子ランチ、多目的ホール、診察室、ことばの教室、絵本コーナー、読み聞かせコーナー、学習室、相談室、事務室、簡易保育スペース他
- 建設工事費：616,970 千円

（4）延岡市子育て支援総合拠点施設「えんキッズ」工事費【参考】

- 名称：延岡市子育て支援総合拠点施設「えんキッズ」
- 所在地：延岡市松山町1-4
- 建物構造：鉄骨コンクリート造2階建て
- 敷地面積：6,124.41 m²
- 延床面積：1,538.71 m²
- 施設内容：
 - ・屋内（1階）：センターホール、賑わい広場、プレイルーム、調理室、多目的室、図書室・学習コーナー、事務室、授乳室、トイレ他
 - ・屋内（2階）：一時預かり保育室、病後児保育室、保護者交流スペース、相談室、洗濯・シャワー室、トイレ他
 - ・屋外：園庭、砂場、駐車場、駐輪場他

■建築

- ①建築工事：540,673 千円
- ②電気設備工事：69,201 千円
- ③機械設備工事：73,185 千円

■ランドスケープ（外構）

①外構工事 ： 8,123 千円

②駐車場整備工事： 74,927 千円

■遊具工事

①園庭遊具工事 ： 30,078 千円

総工事費 796,187 千円

10-6 整備財源計画

現在、国においては、国民・国・地方がー丸となった地方創生の機運醸成をはじめ、地方創生の好事例の横展開を通じて、希望と幸せを実感する社会の実現をめざしています。

本施設の整備にあたっては、国の方針を踏まえ、本市の自主性と創意工夫に基づき、地域の多様な主体の参画による地方創生に資する取組が必要であり、これらの政策に付随する各種整備制度や交付金事業、起債などの有利な制度を最大限に活用していきます。

今後、基本設計の策定を進める中で、現時点において考えられる下記の国県交付金や起債などを基本に、適切な時期に関係課や国県との協議を進めながら、市債などの市財源の最小化をめざします。

■国県交付金

- 新しい地方経済・生活環境創生交付金
- 次世代育成支援対策施設整備交付金
- 子ども・子育て支援施設整備交付金
- 社会資本整備総合交付金（立地適正化計画に基づく都市再生整備計画関連事業）
- 地域脱炭素推進交付金（脱炭素先行地域づくり事業における交付金の活用）

■起債（借入金）

- こども・子育て支援事業債（充当率 90%、交付税措置 30%）
- 一般補助施設整備等事業債（充当率 90%、交付税措置 30%）
- 社会福祉事業債（充当率 80%）

■基金繰入金

- 森林環境譲与税
- 社会福祉事業基金繰入金

10-7 ランニングコスト（以下の数字はあくまで試算にすぎず今後変動する。）

計画段階では、施設の詳細な設計が行われておらず、特に近年の光熱費など物価上昇による経費の算定は極めて困難です。また、施設全体の運営管理には、指定管理者制度の導入を検討します。

■想定される支出項目

- ①直営人件費：常勤スタッフ＋非常勤スタッフ
- ②事務費：消耗品（コピー・文具など）／役務費（通信・電話など）
使用料（ネット・サーバーなど）
- ③管理費：光熱費／燃料費／委託料／使用料／各種負担金
- ④事業費：印刷・製本など
- ⑤修繕費：日常的な1年単位の修繕費
- ⑥大規模修繕費：10年、あるいは20年ごとの大規模な修繕費

■想定される収入

現時点では、この施設が有料（部分的）となるか無料となるか不明ですが、キッチンなどの外部使用や、イベント時の業者の施設利用、会議室の利用料などで収入が発生することは想定されます。

■想定される一般的な運営経費（指定管理を前提として）

- ①管理・運営 28,000 千円
（4人程度のスタッフが必要だと仮定すると見込まれる金額）

■想定されるサービスに係る事業経費（指定管理を前提として）

- ①地域子育て支援拠点（1）一般型 14,122 千円
- ②病児保育事業（病後児対応型） 10,797 千円
- ③一時預かり事業 5,947 千円
- ④児童福祉サービス利用者支援事業 7,730 千円
- ⑤不登校児童（オアシス教室支援） 5,188 千円
- ⑥子育て相談 2,175 千円
- ⑦発達相談 624 千円
- ⑧ことばの相談 480 千円

※サービス内容に応じて、それぞれ人件費等の経費がかかることが考えられますが、国及び県の補助金制度を活用するとともに、市が運営主体となるのではなく、民間事業所を誘致する形にして、市自体はコスト負担を行わないという方法も考えられます。

サービスに係る運営経費の総計

約 47,000 千円／年間

※現時点でのランニング・コスト算出の目安になるのは、同規模・類似施設である子育て支援総合拠点施設「えんキッズ」の運営管理費用です。

また、様々な年代のこどもたちの利用が想定される本施設において、催事、地域交流イベント、マルシェなどの企画とその実施などが極めて重要となってきます。したがって、これらの創造的運営・管理に関する経費なども別途考慮する必要があります。

10-8 人員配置計画

施設の運営・管理に関する人員配置については、類似施設の配置実態や既存施設「えんキッズ」の状況を参照しながら検討してきましたが、さらに精度を高めるため、来年度予定する「基本設計」の策定において、ZEB プランナーや子育て施設運営の経験者等が協働して検討できる体制構築を図りながら、さらに詳細な検討分析を行っていきます。

11 運営・管理検討

11-1 運営手法検討

施設の運営には、行政の直営、あるいは指定管理者制度の導入などが考えられます。指定管理者制度が公共施設の維持管理に導入されてから時間が経過していますが、さまざまな問題も指摘されています。単なる経費削減のために、本来のサービスが低下したり、人件費の圧迫なども指摘されます。

本施設においては、不登校の児童や様々な悩みを抱えた保護者の利用などが想定され、個人情報の扱いなど行政でなければ出来ない領域があります。その部分に関しては、行政職員が直接運営することが重要です。

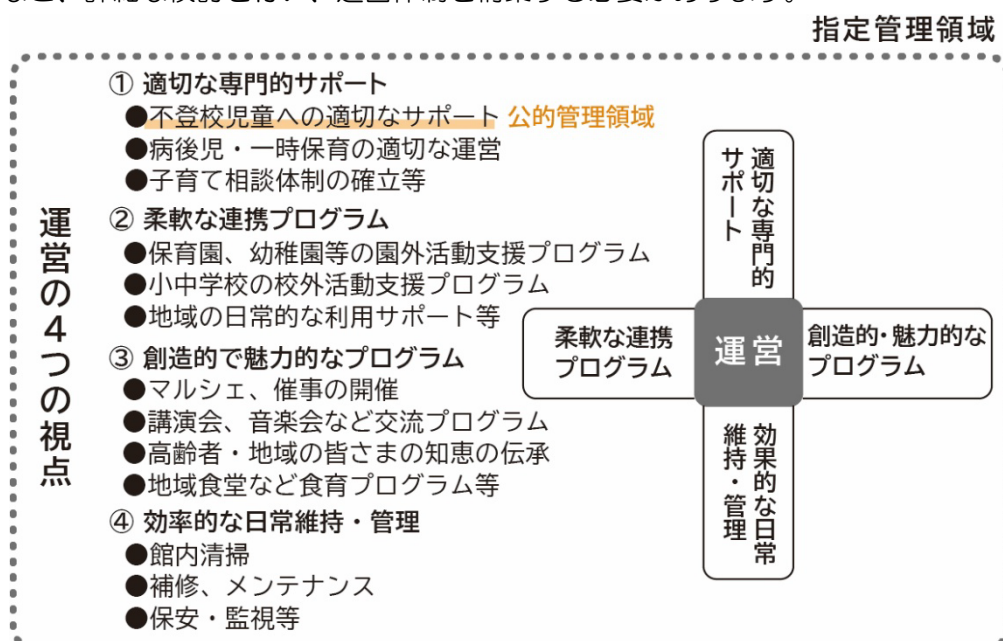
同時に、柔軟で創造的な運営を行い、利用者のニーズに応え、利便性を高めることが最も市民から求められることです。したがって、この部分に関しては指定管理者制度を導入し、民間の創意工夫のノウハウを運営に反映させ、また、施設の清掃、施設管理に関しては効率的・経済的運営管理を行うことが重要です。

11-2 運営体制検討

運営には4つの視点が考えられます。

- ・適切な専門的サポート
- ・柔軟な連携プログラム
- ・創造的で魅力的なプログラム
- ・効率的な日常維持管理

それぞれの領域を組織化し、必要とされる人材を配置しなければなりません。また、災害時や非常事態への対応、外部との通報、連携など2つの領域にまたがる事案の扱いなど、詳細な検討を行い、運営体制を構築する必要があります。



12 基本設計・実施設計における課題

12-1 設計の課題

基本設計は、次の段階である実施設計に向けて、基本計画案をもとに、より詳細な精緻な検討を加え、基本設計図面を作成、実施設計へ繋いで行くものです。したがって、再度、各諸室の面積、機能、仕上げなどを検討し、ユニバーサルデザインの視点、利用者の利便性・安全性などを反映し、俯瞰的に基本設計をまとめていくことが重要です。

さらに、設備設計においては、この基本設計の段階から ZEB の考え方を反映し、効率的かつ維持管理費用を削減できる設備設計を行わなければなりません。

構造設計においては、木造を主体とし、多目的ホールなど大空間の架構の検討、内部と外部を一体化する開口部分の合理的設計など精緻な検討を重ね、設計に反映させなければなりません。

また、基本計画でわかりにくい空間イメージや利用方法などを市民の方々に伝え、理解していただくために、CG やスケッチ、模型などを作成、ワークショップを開催し、可能な限り、利用者、運営者からの意見を設計に反映させる工夫が重要です。

12-2 管理計画の課題

基本計画策定段階で実施したワークショップやヒアリングにおいて、施設完成後の運営・管理に関する意見、要望が数多く聞かれました。その内容は、可能な限り市民ニーズに応えた柔軟な運営、それに伴う体制の充実などでした。

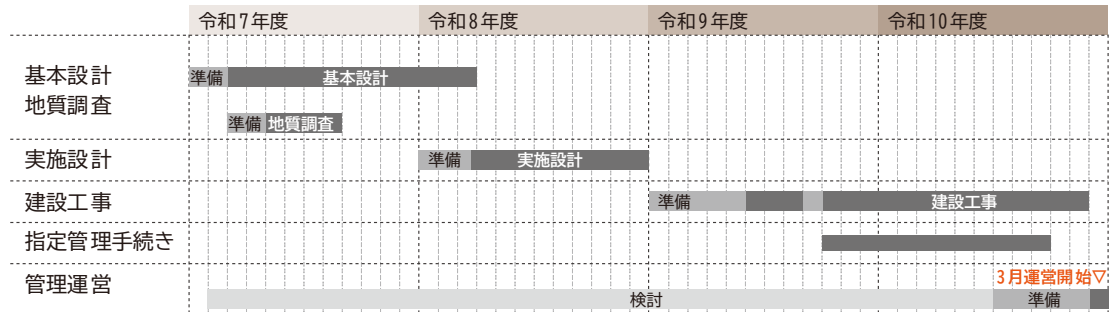
したがって、次の基本設計段階においても可能な限りワークショップ、意見交換会などを開催し、市民の声を設計に反映させることが極めて重要です。また、運営・管理に関して指定管理者制度の導入も検討されていますが、その母体となる組織の検討、人材の発掘なども設計と同時に進め、運営管理を担う方々の意見、考え方が設計に反映されることが理想的です。

基本設計段階でさらに精査な検討が必要な項目としては

- ①ランニングコストの精度の高い検討
 - ②施設の機能と、それに伴う人員配置計画の精査
 - ③指定管理者制度の導入を前提とした運営手法及び運営体制の精査
- などが挙げられます。

13 スケジュール

今後のスケジュールは下記の通り想定しています。



検討資料

(1) ワークショップ議事録

①第一弾 わくわくデザインワークショップ

発注者名	延岡市こども保育課	受注者名	環境デザイン機構
業務名	「南部地域子育て支援拠点施設整備」基本計画策定業務	日 時	令和 6 年 9 月 29 日（日曜） 第一部 10：00～11：30 第二部 13：30～15：00
出席者 （敬称略）	延岡市こども保育課：富岡、中村、吉岡 環境デザイン機構：佐藤（ファシリテーター）、胡（記録）	場 所	延岡市一ヶ岡コミュニティセンター
		打合せ方法	会議 ・ 電話 ・ メール

ワクワクデザインワークショップ

■第一部：こども 10 名

- 小学校 1 年生 1 名
- 小学校 2 年生 1 名
- 小学校 3 年生 2 名
- 小学校 4 年生 1 名
- 小学校 5 年生 2 名
- 小学校 6 年生 2 名
- 中学校 3 年生 1 名

【質問】放課後はどこに行きますか？

- ・ 児童館
- ・ えんキッズ

【質問】児童館やえんキッズに行ったことある人はどれくらいですか？（挙手回答）

- ・ 半分以上

【質問】児童館やえんキッズで何をしているのですか？

- ・ 宿題
- ・ 鬼ごっこ
- ・ ドミノ
- ・ トランプ
- ・ ドッジボール

【質問】新しい子育て支援拠点を作ったら何をしたいですか？

- ・ Wi-Fi あった方がいいと思うけど、ゲーム遊びを禁止されている人もいます。

- ・屋上に運動場をつくってほしい。
- ・展望台
- ・こども専用の階段にネットを掛けて、そこで遊んだり、本を読んだりがしたい。
- ・階段に滑り台を作ってほしい。
- ・こども食堂
- ・VR ルーム
- ・大きな図書図鑑を置いてほしい。
- ・スケボー
- ・シアタールーム
- ・土々呂中学校の近くにある建設会社がこどもを対象に、食べ物の売店と建物の 2 階に遊べるスペースをつくったから、同じものをつくってほしい。

【質問】自転車に乗れる人はどれくらいですか？（挙手回答）

- ・半分以上

【質問】自転車での移動は何処までが許容範囲ですか？

- ・低学年は家の周り、中学年は域内、高学年は校区まで。

【質問】家でゲームしている人はどれくらいですか？（挙手回答）

- ・全員

【質問】携帯を持っている人はどれくらいですか？（挙手回答）

- ・中学生一人

【質問】新しい子育て支援施設でバーベキューしたいですか？

- ・燃える心配がある。
- ・施設周りの人が迷惑に思うかもしれない。

【質問】このワークショップで何をしたいのか理解できた人はどれくらいですか？

（挙手回答）

- ・全員

【記録写真】



■第二部：大人１２名

男性 ２名

女性 １０名

【質問】現在、子育て中の方はどれくらいですか？（挙手回答）

- ・幼稚園以下 ４名
- ・小学生 ５名
- ・中学生 １名
- ・高校生 １名

【質問】こどもの遊び場に対してどのようなイメージをお持ちですか？

- ・小学生はいま放課後の学校も、友達の家に行っても親がいないとダメなので夏は日陰がある玄関で遊ぶことが多いです。沢山の遊具よりもまずは自由に出入ができ、休憩しながら友達と関わる事が出来る自由なスペースが必要だと思います。えんキッズはこどものスペースというよりも親のスペースになっている。こどもが自由に走ることができない。小学生中学生高校生が暴れちゃうと音でうるさい。シンプルで丈夫で明るい建物、そして、今後様々な遊びを展開していけるような空間が理想です。障がい者や高齢者と共有できるスペースと年齢に合わせたスペースも必要だと思います。一番言いたいのは、「こどもをまんやかに」するのであればトイレ、手洗いをこどもの背の高さに合わせてほしいです。

【質問】平日の利用者数を想定する場合、何処までのこどもが来れそうですか？

- ・一ヶ岡小学校と土々呂小学校がメインになると思います。遠い所からは自転車で３０分位かかるし、交通が危ない所を通ることになるのでシャトルバスがないと厳しいと思います。

【質問】子育て施設での遊びや木登りなど自然の遊びについてどう思いますか？

- ・えんキッズはルールが多すぎてこども向けの施設ではないと思いました。自然の遊びもいいですが嫌がるママもいます。その中間位が理想。自然を触れながら想像力を育むことができる、赤ちゃん抱っこしながらもゆっくりできる、安心して見守れる場所にしてほしい。南一ヶ岡は高齢者が多いのでこどもを連れていくとすごく喜ばれるので、高齢者とふれあえる施設にするといいと思います。
- ・事例にあったボランティアによる運営について、高齢者を対象にこどもの見守り隊を募集し、運営に関わってもらえればお母さんもゆっくりできるじゃないかと思います。

【質問】検討プランに対してのご感想をお聞かせください。また、この施設でしたいことを教えてください。

- ・住宅の敷地からアクセスできる多目的スペースが欲しいです。花火や木を使った遊び、

泥遊び、足首くらいのジャブジャブ広場。

- ・畳の部屋が欲しいです。
- ・抹茶など日本文化を伝えるようなイベントの時に、畳の部屋若しくは畳が敷けるようなスペースがあるといいと思います。広い部屋にして必要な時だけ仕切る方が使いやすいと思います。

【質問】 この施設でのカフェや飲食についてどう思いますか？

- ・色んなモノが無くてでもこどもがお茶を飲めるとか飲水器があるようなスペースが欲しいです。子育て世代が必要なスペースと小学生中学生が必要なスペースは違うので、利用者の特性によって空間を区分し、ルールを決めることが重要だと思います。えんキッズはルールが多いのはそういうリスクを回避するためだと思います。多様化にしようとするルールが増えてクレームも多いので、えんキッズにないおやこの森にないような部分がこの施設にあった方が良くと思います。そうすれば、親もその時その時に需要によってそれぞれの施設を使い分ける事が出来ます。
- ・駄菓子屋。
- ・飲食の持込は可能にした方がいい。
- ・丁度最近家に来られたお客様とカフェのような場所が欲しいとお話をしていました。300 円～500 円くらいのパンとお茶とかがあれば十分です。あまり料理する必要がないもの、手が込んだ料理じゃなくていいと思います。

【質問】 この施設にデジタル要素はあった方がいいと思いますか？

- ・小学生以上の大きいこども達が来る場所と考えているのであれば、Wi-Fi があってゲームができる場所じゃないと来ないと思います。エンクロスも自由に Wi-Fi が使えるからこども達が集まっている。
- ・不登校のこどもも Wi-Fi があればリモートで授業が受けられる。
- ・この施設を暇つぶしできる施設にするのか？教育を取り入れる福祉厚生の施設のするのによって違うと思います。
- ・今の若いお母さん達とこども達は教育の要素が強すぎると拒否する傾向があり、頻繁に行けないから行きやすい場所の方がいい。慣れた場所にワークショップが開催していれば最初は興味がなくても徐々に興味を持つようになると思います。それより先にお母さんがホッとできる、ガラス越しでも安心してこどもを見守れる場所づくりの方が大事だと思います。

【自由討論】

- ・スペースが足りないから総二階で考えてほしい。
- ・1000 m²は保育園や幼稚園一棟くらいの広さなので、色んな要素を入れちゃうと一つ一つのスペースが狭くなるし広い駐車場が作れないので施設の柱を決めた方がいいと思います。
- ・建物の大きさよりも施設の常駐人数、見守れる人数、機能や運営などのソフト面の方

が重要だと思います。施設が大きくなればなるほどスタッフの人数も増えるので検討する必要があると思います。えんキッズはルールが多いのは見る目が足りないからと思います。

- ・エンクロスができた当初は行っていましたが今はママ友と日向駅に行くことが多いです。こどもが自由に走り回れるスペースがあるからです。
- ・この施設ができたなら市外からの利用者もいると思うので想定の 1000 m²は狭いと思います。利用者を市内に限定すれば移住者が増えるかもしれません。市外の呼び込みに繋がると思います。
- ・日向には公園が発達しているし遊具や広いスペースもあるのでこの施設が出来たとしても来ないと思います。遊ぶときは近場で遊具が多い所に行くことが多いです。
- ・駐車場が広いと行きやすい。
- ・サークルママ友の集まりではすぐ車 10 台になるので駐車場は広い方がいいと思います。
- ・元々50年前の延岡の人口はもの凄かったので、呼び込む目玉があると人口は増える可能性はあると思うので、そのために駐車場は広くとった方がいいと思います。

【記録写真】



以上

文責 環境デザイン機構 胡

②第二弾 わくわくデザインワークショップ

発注者名	延岡市こども保育課	受注者名	環境デザイン機構
業務名	「南部地域子育て支援拠点施設整備」基本計画策定業務	日 時	令和 6 年 12 月 1 日（日曜） 午前の部 10:00～11:30 午後の部 13:30～15:00
出席者 （敬称略）	延岡市こども保育課：富岡、中村、吉岡 環境デザイン機構：佐藤（ファシリテーター）、胡（記録）	場 所	延岡市一ヶ岡コミュニティセンター
		打合せ方法	会議 ・ 電話 ・ メール

■午前の部：合計 16 名（大人 10 名、こども 6 名）

【質問】キッズルームに必要と思われるものや機能はありますか？

子育て中はどこに行きますか？不便を感じたことは何ですか？

- ・家族で公園に行くことが多い。常にこどもを見張る必要がある。
- ・雨天時はよくイオンに行きます。商業施設のキッズコーナーは無料だからよく利用します。
- ・こどもが未だ小さいのでよくえんキッズを利用している。えんキッズと差別化できるように違う遊具や機能が欲しい。

→（KDK）遊具（ネット遊具、ふわふわドームやボルダリング）については、アンケート内でも質問しています。

- ・熊本のショッピングセンターに行くと、こども 2 人がよくトランポリンで遊んでいる。トランポリンあれば一日中遊べると思います。

【質問】遊具についてご意見ありますか？泥んこ遊びや木登りなどについてどう思いますか？

- ・責任はどうなるのが気になります。
- ・こども達だけで行かせて良い施設ですか？常駐する管理人はいますか？

→（市）運営やルールはこれから決めていきますが、小学生以上であれば、児童館的な位置付けとして考えているので一人でも来られる。未就学児は保護者同伴と想定している。

- ・こどもの遊び場は年齢分けした方が安心できる。

→（KDK）キッズルームは保護者同伴じゃないと無理と思います。福岡の事例では、こどもが自由に遊ぶことができるように部屋によって保護者立入禁止な施設もありますが、やはり場所によって保護者同伴が必要になるかと思います。

【質問】学校が終わったらどこに行きますか？（この施設が出来たら）立ち寄りたい

と思いますか？

- ・友達と近くの公園に行きます。サッカーのシュートをしている。
- (KDK) 運動場ではそのような遊びはできると予想している。隣が住宅のため境界にフェンスを立てて、一部に壁を立てることは可能だと思います。
- ・家でゲームしている。
- ・学校に近くて家にすぐ帰れる場所であれば立ち寄るけどここは遠い。
- ・中学生のこどもがいますが平日の学校帰りだと 4 時半になるので、平日よりも週末の利用があるイメージです。一人では行かないが楽しい事があれば友達と行くと思います。安全面としては管理者が常駐していないと親はとても安心できない。
- (KDK) 運営管理は地域の方や高齢者の方がこの施設にどう関わっていくのかが一番大事な点だと思います。

【質問】 こういう施設が出来たら高齢者にできることについてどう思いますか？

- ・高齢者はあまり出かけない。公民館の集会は行きますがそれ以外はなかなか。
- ・今はこどもを誘拐するなどの犯罪率が高くなっているので、預かる人も大変だと思います。
- (KDK) 世代によって子育ての考え方は異なるが、世代を超えて受け継がれていくべきこともあるのでお節介を焼く機会があっても良いのではないかと思います。
- ・こどもが小学校の時、授業の中で地域の高齢者クラブの方が教えてくれたのが楽しかったと言っていました。そういうイベントを企画すれば交流ができると思います。
- (KDK) 運営としてこどもの安全を考えながら、楽しくなるプログラムを用意することも大事だと思います。
- ・こども 8 人が小さい頃、6 年間毎朝学校まで歩いて見送っていたので、校長先生から勝手に土々呂校区青少年協力隊として任命されていた。
- (KDK) キッチンがあれば地域の餅つき大会ができる。子育てだけでなく地域の方も使える施設であればよいと思います。

【質問】 病後児、不登校のこどもが利用する施設としてどう思いますか？

- ・病後児、不登校のこどもは静かな所の方が良いと思うので、近くのキッズルームや体育館は防音仕様を考えていますか？
- (KDK) 仕切り壁はあるが、専門家の先生に意見を聞くと様々な考えがあるので要検討ですが、重要なのは専門の大人が見える場所にするべきではないかと考えています。
- ・駐車場は屋根つきの方が子連れにはよいかと思います。
- (KDK) 全部は難しいが施設に一番近い周りの駐車場はつけるべきだと思います。

【質問】建物の高さは高台を含めて 10 メーター以下という制限の中、精々 2.5 階または平屋を想定しているが、建物のデザインや有りようについてご意見ありますか？

- ・崖のボリュームが気になる。渋滞時の危険性が考えられる。

→ (KDK) 西の崖に近い所は日差しの条件がよくないのであえて駐車場にしています。

- ・防災の面だと、地域の住民としては津波を予想した場合 2 階建ての方がよいかと思えます。

→ (KDK) 3 メーターの津波を予想した場合、1 階の平屋の床でも浸水することはないと予想しています。

→ (市) 地域内の避難施設との兼ね合いをこれから検討していきたい。

- ・避難する時は地震による道路被害が心配である。ここを避難できる場所にしたい。

→ (市) この場所は津波の浸水がないと予想して選んでいるので、そういった使い方も想定している。車だけでなく徒歩でも来られるように階段を作るなどの対策を考えている。

→ (KDK) 防災の面では、備蓄用の倉庫が必要になってくると思います。

【質問】飲食についての考え方を教えてください。

- ・えんキッズは飲食が出来ない。飲食できる室内の遊び場がないのであった方が助かる。お店は有ってもなくても飲食スペースがあればよい。

→ (KDK) 電子レンジがあれば簡単な調理も可能だと思います。

【質問】運営についてご意見ありますか？（行政直営、民間組織、地域の方）

- ・飲食できる場所は清掃の負担があるので行政だけでは難しいと感じているがイベントを企画したり、相談する人もほしいので難しい問題です。

→ (KDK) 不登校や相談事などプライバシーに関する業務は直営の方がよいが、遊び場やその他については民間や地域の方が柔軟に管理するという考え方もある。

【質問】ここでやってみたいことはありますか？

- ・ターザンロープ。

→ (KDK) 2 階建てであれば作れます。ネット遊具でも同じ遊び方ができる。

- ・公園にある地球型の遊具はこども達がよくあそんでいる。昔はケガして覚えてきた、今は大問題になるのでできない。

→ (KDK) 今の時代はなかなか難しいが東京世田谷プレーパークの事例では、泥んこ遊びや木登りなどこどもが自由に遊ぶことができるのは、地域の方の関わりやサポートがあるから成立できる。

- ・でかいプールがほしい。

→ (KDK) 日陰があるテラスであれば夏場に小さいこどものビニールプールは置ける。中庭に霧状のミストの装置を付ければ夏場でも遊べます。

- ・図書館。

→ (KDK) 設計の段階になるが、学習室、図書室はこどもの第3の居場所として考えている。福津の事例では図書コーナーの黒板に自由に落書きができる。

【質問】 大型遊具についてどう思いますか？

- ・あった方が良くと思います。

- ・こどものトイレは一箇所だけでなく、色んな場所にあった方が良くと思う。

【質問】 全体についてご意見ありますか？

- ・パソコンがほしい。

- ・映画を観るところがほしい。

→ (KDK) デジタル世代なのでスクリーンとかあっても良いと思います。

- ・ジャングルジムがほしい。

→ (KDK) ネット遊具は同じような遊びができる。

- ・サッカーができる場所がほしい。

→ (KDK) 運動場の一箇所に作れるかもしれない。噪音を考えると隣の住宅は子育て世代の方が理解してもらえる。

【記録写真】



■午後の部：合計 12 名（大人 5 名、こども 7 名）

【質問】追加して欲しい機能はありますか？

- ・不登校や病後のこどもを見てくれる場所があるのはうれしい。不登校のこども達がどういう支援が受けられるのかが気になります。

→（KDK）専門の方が常駐し、こどもをケアする必要があると思います。

【質問】休日はこどもを何処に連れて行きますか？

- ・屋内は走りたくても走り回れないので公園や屋外が多い。あとはイオン、出費が高くなる。

【質問】お子さんの年齢は何歳ですか？屋外でどういう遊びをしますか？

- ・小学生と幼稚園生です。遊具遊びやボール遊びが多いです。

【質問】遊び場について何かご要望ありますか？

- ・特に制限はしてないのですが、ネット遊具を登ったり、自由に走り回れる場所。

【質問】学校の帰りはどこに行きますか？

- ・友達の家近所の公園でボール遊びをしています。

→（KDK）この施設が出来たら使いますか？

→はい。

→（KDK）学校帰りのこどもにも使ってほしいので、欲しいモノ（設備や機能）はありますか？

→運動場の広さはどれくらいですか？

→（KDK）プールくらいの広さがあります。ボールを蹴ったりするのは学校の方がよいかもしれない。多目的ホールならネット遊具の下に卓球台を置いたり自由に使えるスペースができる。

【質問】子育て中ではないがこの施設に関われるようなイメージは出来ますか？

- ・高校生の娘が学校帰りによくコーヒーショップに寄って帰ってくるので、施設に喫茶ができる所があれば高校生やちょっとした集まりにも利用しやすいかと思います。緑ヶ丘の利用者が一番多いと書いてありますが、こういった施設になりますか？

→（市）緑ヶ丘は児童館になります。集会室、図書コーナー、グラウンドがあるような施設です。規模はもう少しコンパクトになります。利用者は多いが建物が老朽化しているため、今回南部にも同じ機能を検討しているところです。

→（KDK）夏場に冷房が効いている公共施設に宿題をする高校生をよく見るので、週末や夏休みに友達と来て勉強ができる場所というのは機能としても重

要だと思います。また、飲食に関しては常駐で営業する飲食店は採算が合わない為、各自食べ物を持ち寄って一緒に食べたり、イベント時には業者さんが週末だけキッチンで調理するなどには可能だと思います。

・キッチンは家庭レベルを想定しているのですか？

→ (KDK) 中身はこれから検討しますが、家庭レベルな設備はできると思います。午前中のワークショップではえんキッズは飲食ができないとのことがあったので、少なくとも子育て中のお母さんが使えるキッチンと飲食できるスペースがあった方が良いでしょうと思います。

【質問】 この施設が近所に出来たら関わり方とかはどうですか？

・横に建設される市営住宅に入る予定ですが、子育て施設の運営や設備などについて話を聞きに来ました。

→ (KDK) 住宅は隣接しているため、可能であればこの施設に関わりたと思う方に住んでいただいて積極的に関わっていただければと思っています。

・運動場みたいな余地があるのは良いと思います。

・運動場は車の出入りも想定しているとのことなので仕上げはコンクリートになるのですか？

→ (KDK) 中庭は人工芝ですが、運動場は要検討です。次の段階の検討項目に入れます。

【質問】 A～D の 4 案についてご意見ありますか？

・住宅と運動場の堺にはどんな形で区切るのが気になります。

・ボール遊びができる壁がほしいです。

→ (KDK) できれば一体なものにしたいので、今後検討する必要があります。

・年齢別に遊び場を区切ってほしい。0～3 歳のこどもをキッズルームで遊ばすにも目が離せないなので、別の部屋に行かなくても保護者が座って見守りながらお喋りできるカウンターやスペースがあれば良いと思います。

→ (KDK) 託児所ではないので、基本は保護者同伴での使用になるかと思っています。年齢によって遊び方が違うので分ける必要はあると考えています。

・食べ物を買いに行かなくてもいいように、置いてほしい。

→ (KDK) 自販機は置けると思います。

・ラーメンが食べたい。

・事務室でラーメンを販売したら良いと思います。

【質問】 デジタルな機能についてどう思いますか？

・ゲームはあまりしない。友達と一緒にいる時は Wi-Fi がほしい。

【質問】 こどもの活動に積極的に関わっていますか？

・10 年前行政主催の餅つき大会やしめ縄作りでは、地域の高齢者の方が教えて

いた。

→ (KDK) 運営管理についての考え方は色々あるが、最低限のプライバシーや個人情報に関する業務は行政に担ってもらい、こどもと遊んであげるのは地域の方に積極的に関わってもらうのが一番理想的である。キッチンや中庭、屋根付きのデッキもあるので、餅つき大会や地域の伝統を受け継ぐような場所になってほしいと思います。

【質問】 この地域ならではの伝統行事はありますか？お祭りとか？

- ・前は野球場でやっていましたが、今は消防署に移動しました。
- ・こども達の利用は無料になりますか？有料な場所はありますか？

→ (市) 細かい設定はこれから検討していきます。施設自体は無料ですが研修室などは今後検討していきます。

→ (KDK) 今まで関わってきた子育て施設は全部無料だったが、唯一長崎の全天候遊戯施設は大変こどもに人気のため有料の時間制にしている施設です。

- ・こどもが学校帰りに必ずお金を持っているとは限らないので。制限があると行かないかもしれません。

【質問】 この施設でやってみたい事業はありますか？ママ友のネットワークはどんな感じですか？

- ・一度だけママ友とおやこの森に行ったが、仕事しているお母さんが多いので集まることはあまりない。こどもを遊ばせながらお話できる場所もないので。この施設が出来れば有難い。

【質問】 疑問点や質問などありますか？

- ・避難所はそれぞれ家の近くにあるし十分と思うので、それよりも備蓄品を確保する場所にしてほしい。

→ (KDK) 子育て支援施設なので、子育てに特化した備蓄も考えられます。

【記録写真】



以上

文責 環境デザイン機構 胡

③延岡工業高校ワークショップ

発注者名	延岡市こども保育課	受注者名	環境デザイン機構
業務名	「南部地域子育て支援拠点施設整備」基本計画策定業務	日 時	令和 6 年 12 月 6 日（金曜） 14：15～15：05
出席者 （敬称略）	延岡市こども保育課：中村、吉岡、高田 環境デザイン機構：佐藤（ファシリテーター）、馬詰（記録）	場 所	延岡工業高校
		打合せ方法	会議・電話 ・メール・ZOOM
延岡工業高校ワークショップ（生活文化科 3 年生） 事務局より趣旨の説明 【質問】学校が終わったあと、みんなどこで何をしていますか？（KDK） ・延岡駅でたまっていることが多い。 ・カラオケやイオンに行く。 ・公園 【質問】週末はどこに行く？過ごし方は？（KDK） ・家にいる。 ・夏は川に行っていた。 【質問】2階に欲しい機能はありませんか？（KDK） →PCを使うことが多いので、Wi-Fi やコンセントが欲しい。 【質問】多目的ホールでは何をして遊びますか？（KDK） →ミニバレーボール 【高校生からの質問や意見】 ・テスト前、みんな勉強するために集まるので、学習室を広くして欲しい。駅にも座る場所がなくて屋外にある椅子で勉強したりしている。 →会議室は毎日使用されているわけではないので、学習室としても利用可能。また、ギャラリースペースも椅子とテーブルを置いて勉強スペースとして利用可能。（KDK） ・コンビニがあると良い。 →コンビニは難しい。自販機などは設置できる。また、キッチンではお弁当をあっためたりできる。（KDK） ・何時まで開いているのか？ →小学生は早く、中高生はある程度遅くまで利用できるようにと考えている。希望			

の時間はあるか。(延岡市)

→21時まで。(高校生)

- ・たたみの部屋はなんのためにあるのか。高さはあるのか。

→高さはある。自由に使ってもらえたらと考えている。囲碁をしたりテーブルを出して勉強したり。(KDK)

- ・一時保育は保育士さんが常駐しているのか。また何時まで利用できるのか。

→現在ある一時預かりは17時から18時くらいまで。これから希望を聞きながら検討する。(延岡市)

- ・PLAN-Aが良いと思う。キッズルームと多目的ホールが近いので行き来しながら騒げる。学習室は2階に離れているので、集中しやすい。

- ・EVやエスカレーターはあるのか。

→EVはある。(KDK)

- ・駐輪場に屋根が欲しい。

- ・キッズルームは1階の方が良い。

- ・利用料金は必要か。

→長崎市の遊び施設は有料という事例もあるが、公共施設のため原則無料だと思う。(KDK)

- ・駐輪場が少ない。

- ・建物内に自販機はあるのか。

→キッチン廻りに設置できる。このキッチンはイベント時や週末などに業者が入るイメージ。(KDK)

- ・トレーニングルームが欲しい。

- ・2階建ての方が良い。平屋だと運動場がなくなるし、学習室が中庭の近くで集中できない。

- ・ネット遊具はみんな大好きなので、あった方が良い。

- ・洗濯室はトイレの近くがいいと思う、汚れたりしたらすぐ洗える。

→キッズルームの中にあるトイレは、おもらした子がお尻を洗ったりできる。洗濯室もあった方がいいかもしれない。(KDK)

- ・病児保育や一時預かりや不登校生の憩いの部屋の近くにトイレがあった方が良い。

- ・みんながゆっくりできるスペースにプロジェクターやYOGIBOがあると良い。

【運営について】

- ・建物ができたらみんな使用したいと思いますか？また、運営に携わってみたいと思いますか？(KDK)

→小さい子と遊べるボランティア高校生がいると良い。

→保育士のアルバイトは募集するのか？

→運営していく中で必要になってくる。保育士だけではなく、プログラム検討したりなど。(KDK)

【やってほしいイベント】

- ・映画観賞会
- ・ハロウィンやクリスマス会などのイベント
- ・動物とこどもがふれあえるイベント
- ・夏祭りやものづくりを親子で体験するイベント

以上

文責 環境デザイン機構 馬詰

④聖心ウルスラ学園高校ワークショップ

発注者名	延岡市こども保育課	受注者名	環境デザイン機構
業務名	「南部地域子育て支援拠点施設整備」基本計画策定業務	日 時	令和 6 年 12 月 11 日（水曜） 16：40～17：40
出席者 （敬称略）	延岡市こども保育課：中村、吉岡、 児玉 環境デザイン機構：佐藤（ファシリテーター）、馬詰（記録）	場 所	聖心ウルスラ学園高校
		打合せ方法	会議・電話 ・メール・ZOOM
聖心ウルスラ学園高校ワークショップ （2年生 12名参加） ・事務局より趣旨の説明 ・KDK より自己紹介及び説明 ・生徒より自己紹介 【質問】学校終わったあと、みんなどこで何をしていますか？（KDK） ・スタバに行っている。1回に 700 円くらいかかっている。 ・延岡駅 【質問】友達の家に行きますか？（KDK） ・あまり行かない。 【質問】週末はどこに行く？過ごし方は？（KDK） ・イオンのゲームセンター ・マックやカラオケ。カラオケでは 6 時間程度過ごしたりする。 【質問】この施設にカラオケがあったら使用しますか？（KDK） ・使用する。 【質問】別物件でバンドの練習室を設置したことがあるが、あったら使用しますか？（KDK） ・吹奏楽が使うと思う。夕方以降は練習場所がない。 【質問】2 階に欲しい機能はありませんか？（KDK） ・安いカフェ ・ボードゲームがおいている部屋 ・麻雀ができる場所 ・ネットカフェのような個室が欲しい。Wi-Fi も欲しい。			

【質問】学校や部活以外でするスポーツは？（KDK）

- ・バドミントンや卓球

【質問】イベントをするとすれば何ができる？（KDK）

- ・音楽祭や映画観賞会

【質問】小学生などの小さい子と一緒に遊んだりしますか？（KDK）

- ・遊びたい。

【質問】不登校生の憩の部屋について意見はないか。（KDK）

- ・友達で学校をやめた子がいる。そういった子も使用できると良い。

【高校生からの質問や意見】

- ・運動場を広くして欲しい。鬼ごっこをする。
- ・プールがあると良い。

→維持管理にコストがかかる。最近は民間のプール施設を利用する流れになっている。（KDK）

以上

文責 環境デザイン機構 馬詰

(2) 先進事例施設面積表

①かすやこども館

設備	部屋数	想定面積 (㎡)	備考
事務室 (休憩室・更衣室・倉庫込み)	1	71.675	
玄関・ロビー廻り	1	144	縁側ロビー、おはなしリビング、エントランス、EVホール含む
病後児保育室 (玄関、トイレ、調理作業場込み)	0	なし	
一時預かり保育室	1	262.875	子育てルーム「つどい」
授乳室・調乳室	2		トイレ・沐浴・倉庫等含む
トイレ・手洗い場・乳児用シャワー・沐浴等	2	67.5 (39.275+28.225) 2か所	
静養室	0	なし	子育てルーム「つどい」内に設置
相談室	2	21.325	(6.325+15) 2部屋分
多目的ホール	1	109.25	いろいろホール
キッズルーム	1	94.5	のんびりロビー、図書スペース含む
図書・学習室	1	54	学ぼうスペース
不登校生用ルーム	1	24.75	
ワークルーム・ミーティングルーム	1	87.275	(33.25+20.025+34)
会議室・研修室	0	なし いろいろホールやボランティアルームを使用	
調理室	0	なし	
飲食スペース	1	19.35	自販機・売店(想定)スペース
室内運動場 (倉庫・備蓄倉庫含む)	1	300	動こうスペース
廊下・EV・階段・その他		188.83	
室内合計面積 (㎡)		1,445.33 ㎡	

②福津市児童センターFUCSTA

設備	部屋数	想定面積 (㎡)	備考
事務室 (休憩室・更衣室込み)	1	129.47	フクスタ側 58.57 ㎡+子育て支援センター側 62.2 ㎡+給湯 8.7 ㎡ フク側 42.98+子支セン 110.85
玄関・ロビー廻り	1	153.83	
病後児保育室 (玄関、トイレ、調理作業場込み)	0	なし	
一時預かり保育室	1	254.8	子育てサロン1 156.95 ㎡ 子育てサロン2 70.6 ㎡ 通路 27.25 ㎡
授乳室・調乳室	2		
トイレ・手洗い場・乳児用シャワー・沐浴等	2	63.39	フクスタ側+子育て支援センター側
静養室	0	なし	
相談室	1	18.3	
多目的ホール	1	156.61	あいあいホール(多目的室) ※卓球・ビリヤード 129.29 ㎡ スタジオ 27.32 ㎡
キッズルーム	1	80.83	タンタンルーム (作業室、図書・遊戯スペース)
図書・学習室	1	151	スラスラルーム 50.46 ㎡ カリカリルーム 53.43 ㎡ モクモクルーム 47.11 ㎡
不登校生用ルーム	0	なし	
ワークルーム・ミーティングルーム	1	28.88	ボランティアスペース
会議室・研修室	0	なし	
調理室	1	24.91	
飲食スペース	1	150.17	ロビー138.89 ㎡、 売店 11.28 ㎡
室内運動場	0	なし	多目的室がその機能を果たす
倉庫・備蓄倉庫		31.35	3か所分(書庫含む)
廊下・EV・階段・その他		96.72	
室内合計面積 (㎡)		1,340.26 ㎡	

③子育て支援総合施設 モッカランド

設備	部屋数	想定面積 (㎡)	備考
事務室 (休憩室・更衣室込み)	1	116.05	更衣室 (6+3.91)、 給湯 (4.14+6) 含む
玄関・ロビー廻り	1	269.73	絵本コーナー含む
病後児保育室 (玄関、トイレ、調理作業場 込み)	0	なし	
一時預かり保育室	1	56	ファミリーサポート実施
授乳室・調乳室	2	21.5	
トイレ・手洗い場・乳児用シ ャワー・沐浴等	3	72.25	男女トイレ、多目的トイレ×3、 シャワーパン
静養室	2		診察室、相談室との兼用
相談室	6	68	相談室2部屋、 診察室4部屋
多目的ホール	1	192	
キッズルーム	1	202	モッカルーム 120㎡ にこにこルーム 34+48㎡
図書・学習室	1	87.5	学習室 66㎡ ことばの教室 21.5㎡
不登校生用ルーム	0	なし	
ワークルーム・ミーティング ルーム	1	108	カフェ兼ワークキングスペース・ 読み聞かせコーナー
会議室・研修室	0	なし	学習室がその機能を果たす
調理室	1	63	クッキングルーム
飲食スペース	1	36	おやこランチ (畳)
室内運動場	0	なし	多目的ホールが機能を果たす
倉庫・備蓄倉庫	8	128.02	8か所分 (書庫2含む)
廊下・EV・階段・その他		84.95	
室内合計面積 (㎡)		1,505 ㎡	

(3) アンケート調査

①調査概要

住民アンケートは、基本構想策定段階でも実施したが、基本計画においては、さらに具体的な施設の配置、規模、必要とされる機能などについて、主たる利用者が想定される土々呂中校区、南中校区内の幼稚園、保育園、小学校、中学校の保護者を対象として実施しました。

■調査設計

アンケートは、主に2中学校区内の保護者に学校を通して配布し、回答は、QRコードを読み込みネット上での回答と、郵送による回収の2つの方式で実施しました。

- 調査地域延 : 延岡市内の土々呂中学校校区、南中学校校区
- 調査対象 : 主たる利用が想定される上記校区の保護者とそのこども
- 標本抽出方法 : 無作為抽出法
- 調査方法 : 1 幼稚園、3 保育園、7 認定こども園、6 小学校、2 中学校の児童・生徒へアンケート調査表の配布および児童館・コミュニティセンター・店舗へのアンケート調査表の設置～Web 回答及び郵送回収
- 標本数 : 2,582 サンプル
- 有効回収数 : 514 サンプル（返送 168 サンプル+Web346 サンプル）
- 有効回収率 : 19.9%
- 調査期間 : 令和6年11月25日（月）～12月16日（月）
※最終の締切は12月16日（月）

■調査企画と調査実施

調 査 企 画 延岡市 こども保育課
調 査 実 施 株式会社環境デザイン機構

②調査結果概要

■回答者属性

- ・女性の回答が圧倒的に多い（87.5%）
- ・年齢層としては30-49歳が80%近くを占める
- ・回答者の68.3%が20年以上延岡市に居住している
- ・両親と複数のこどもという世帯構成が回答者の65.8%
- ・未就学及び小学校のこどもを持つ世帯が多い

この結果から、的確に利用想定の子童、保護者からの回答があったと判断されます。また、若い世代が多かったため、WEBでの回答が67%と高いのが特徴です。

■施設の規模、機能について

広さ、機能で不十分という答えが10%を超えていたのは

- ・一時預かり保育室（13.6%）
- ・病後児保育室（13.6%）
- ・憩いの部屋（不登校児童対応）（15.0%）
- ・学習室（12.8%）

であり、回答者の関心とニーズの高さが窺える。

他の諸室、及び運動場などに関しては概ね十分な広さ、機能であるとの回答が多い。

■遊具に関して

大型遊具3点については、設置すべき、あったほうが良いの回答が70%を超えています。

■4つの素案について

- ・45.1%の回答がA案と答え、24%が平家のD案と回答
- ・理由としては各機能のつながり、連続性が優れている、こどもの視点から楽しそう
で、良く使われると思えるが上位となっています。

(4) 検討組織の委員名簿

本計画の策定にあたって延岡市子ども・子育て会議、延岡市南部地域子育て支援施設建設検討委員会にて審議を行った。委員及び事務の体制については以下の通りです。

①延岡市子ども・子育て会議

■名簿

委員

(会長)	衣笠 高広 (九州医療科学大学)
(副会長)	木本 宗雄 (子育て支援センター おやこの森) 令和6年9月まで
(委員)	甲斐 英哉 (延岡市保育協議会) 令和7年1月より副会長に選任
	小澤 のり子 (子育て支援センター おやこの森) 令和7年1月より
	三宅 貴之 (延岡市学校法人立幼稚園協会)
	牧野 多津子 (延岡市保育協議会 児童館・児童クラブ担当)
	芳本 里恵 (保育所保護者代表) 令和6年9月まで
	高本 泰世 (保育所保護者代表) 令和7年1月より
	田中 亜由美 (幼稚園保護者代表) 令和6年9月まで
	塩手 由季 (幼稚園保護者代表) 令和7年1月より
	橋倉 秀美 (北方地区民生委員児童委員協議会)
	柴 歳治 (北浦地区民生委員児童委員協議会) 令和6年9月まで
	太田尾 峰子 (北浦地区民生委員児童委員協議会) 令和7年1月より
	小野 敬通 (北川地区民生委員児童委員協議会)
	川原 寛幸 (延岡市小・中学校校長会)
	佐藤 信博 (延岡市医師会)
	後藤 彰宏 (延岡商工会議所)
	甲斐 賢治 (連合宮崎県北地域協議会)
	田中 千穂 (のべおか男女共同参画会議21)
	阿波野 美樹 (延岡市PTA連絡協議会)
	藤本 幹子 (延岡市子ども会育成連絡協議会)
	安藤 宗人 (宮崎県手をつなぐ育成会延岡支部)
	姫田 芳子 (延岡市民生委員児童委員協議会)
	西田 敏秀 (宮崎県延岡保健所)
	石野田 考啓 (宮崎県延岡児童相談所)
	丸山 真二 (延岡市教育委員会)

②延岡市南部地域子育て支援施設建設検討委員会

■名簿

委員

(委員長) 衣笠 高広 (九州医療科学大学)
(委員) 松原 由美 (小田原短期大学延岡スクール)
鉄矢 悦朗 (東京学芸大学)
金子 嘉宏 (東京学芸大学)
宝珠山 厚生 (延岡市医師会)
久保田 剛史 (地域の小学校長)
岡崎 裕也 (地域の中学校長)
稲吉 悦夫 (延岡市区長連絡協議会)
伊東 忠俊 (延岡市民生委員児童委員協議会)
三宅 貴之 (延岡市学校法人立幼稚園協会)
黒木 啓喜 (延岡市学校法人立幼稚園協会)
甲斐 英哉 (延岡市保育協議会)
牧野 多津子 (延岡市保育協議会 児童館・児童クラブ担当)
谷川 亜希 (地域の保護者)
渡邊 亜由美 (地域の保護者)
芳本 里恵 (地域の保護者)
岩瀬 央恵 (地域の保護者)

幹事会

(幹事長) 児玉 欣也 (健康福祉部・部長)
(副幹事長) 中川 真一 (都市建設部・部長)
高橋 一朗 (危機管理課・課長)
渡部 貞陽 (脱炭素政策室・室長)
野々垣 真由美 (おやこ保健福祉課・課長)
林田 幸夫 (都市計画課・課長)
工藤 俊一 (建築住宅課・課長)
浜口 英章 (建築指導課・課長)
佐藤 健一郎 (学校教育課・課長)

事務局 こども保育課

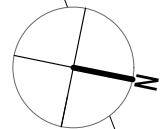
富岡 忠伸 (課長)
下清水 大輔 (課長補佐)
中村 洋志 (係長)
吉岡 佳祐 (総括主任)

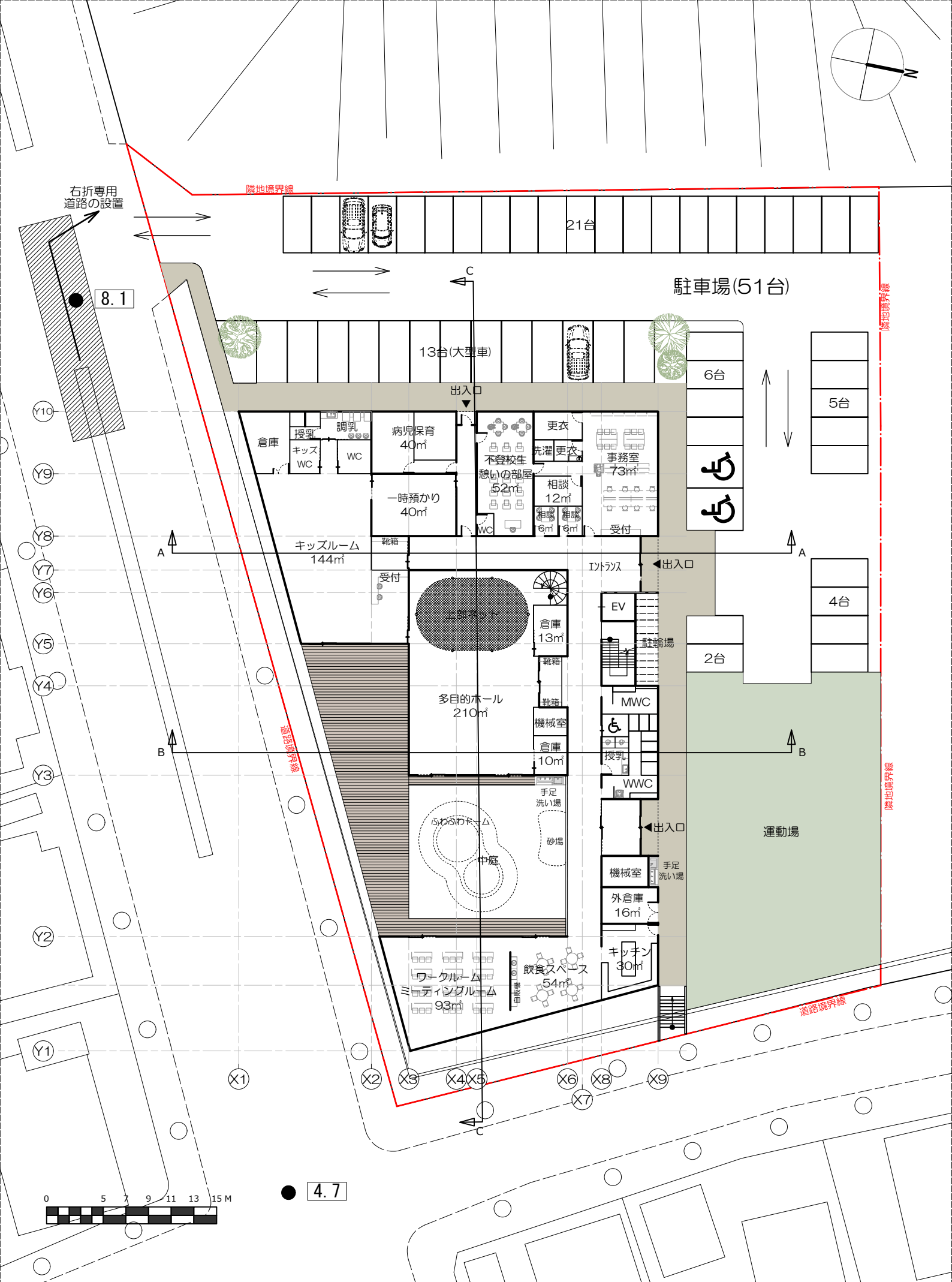
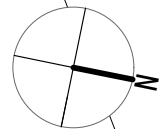
コンサルタント 株式会社環境デザイン機構

■検討過程

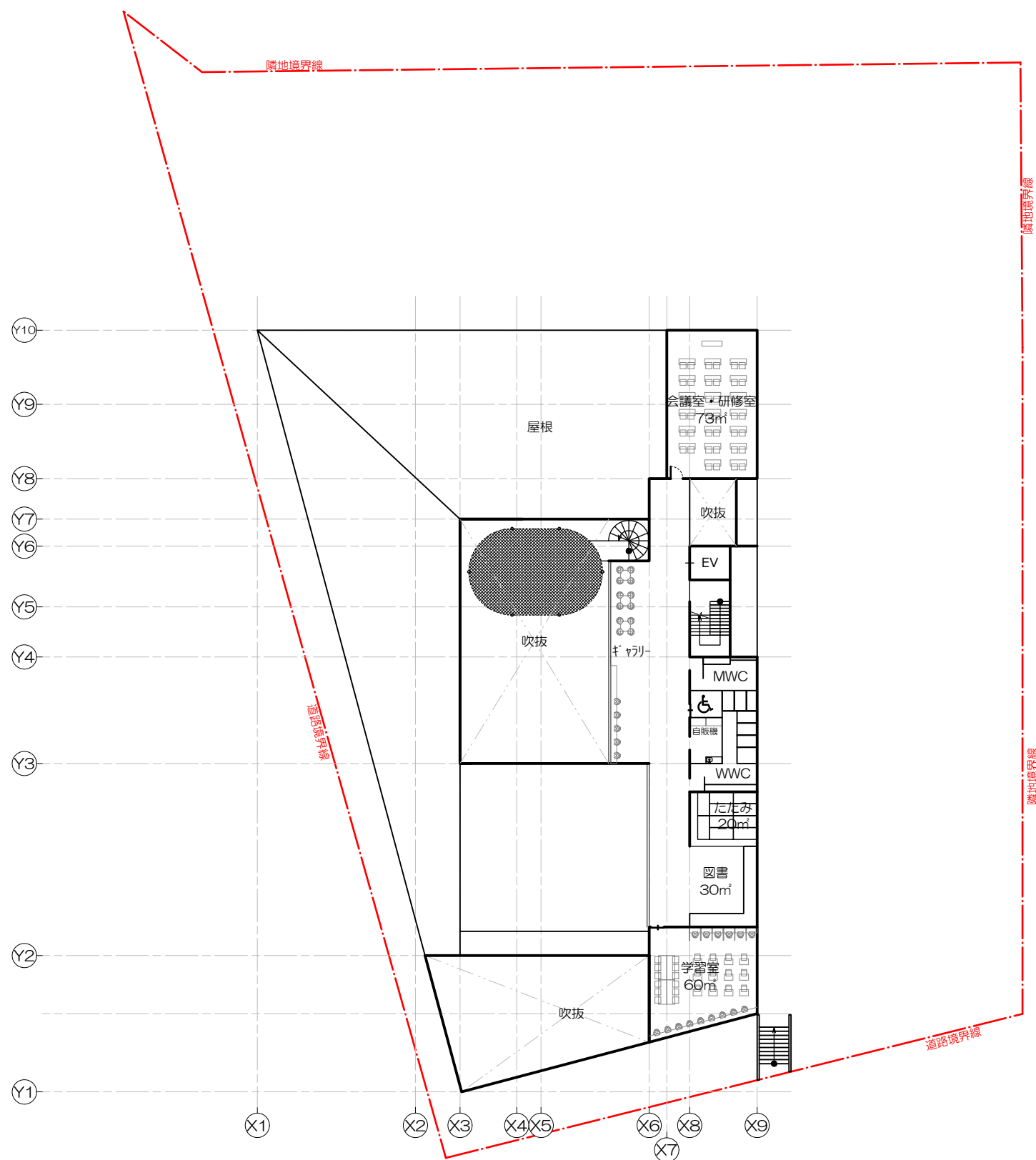
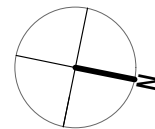
委員会	開催日	概要
子ども・子育て会議 第1回	令和6年 6月5日	(1) 基本構想について (2) 基本計画策定に向けた今後のスケジュールについて
南部地域子育て支援 施設建設検討委員会 第1回	令和6年 8月20日	(1) 設置場所の決定について (2) 作業スケジュールについて (3) 緑ヶ丘児童館との連携・役割分担について (4) 先進地視察の報告
子ども・子育て会議 第2回	令和6年 9月2日	(1) 設置場所の決定について (2) 作業スケジュールについて (3) 先進地視察の報告
南部地域子育て支援 施設建設検討委員会 第2回	令和6年 11月14日	(1) 敷地や施設、広場、駐車場を含めた配置の複数案の検討 (2) アンケート調査実施に向けた内容の検討
南部地域子育て支援 施設建設検討委員会 第3回	令和7年 1月9日	(1) 基本計画（素案）の検討、策定
子ども・子育て会議 第3回	令和7年 1月16日	(1) 基本計画（素案）の検討、承認
南部地域子育て支援 施設建設検討委員会 第4回	令和7年 2月25日	(1) 基本計画の検討、策定
子ども・子育て会議 第4回	令和7年 3月3日	(1) 基本計画の検討、承認

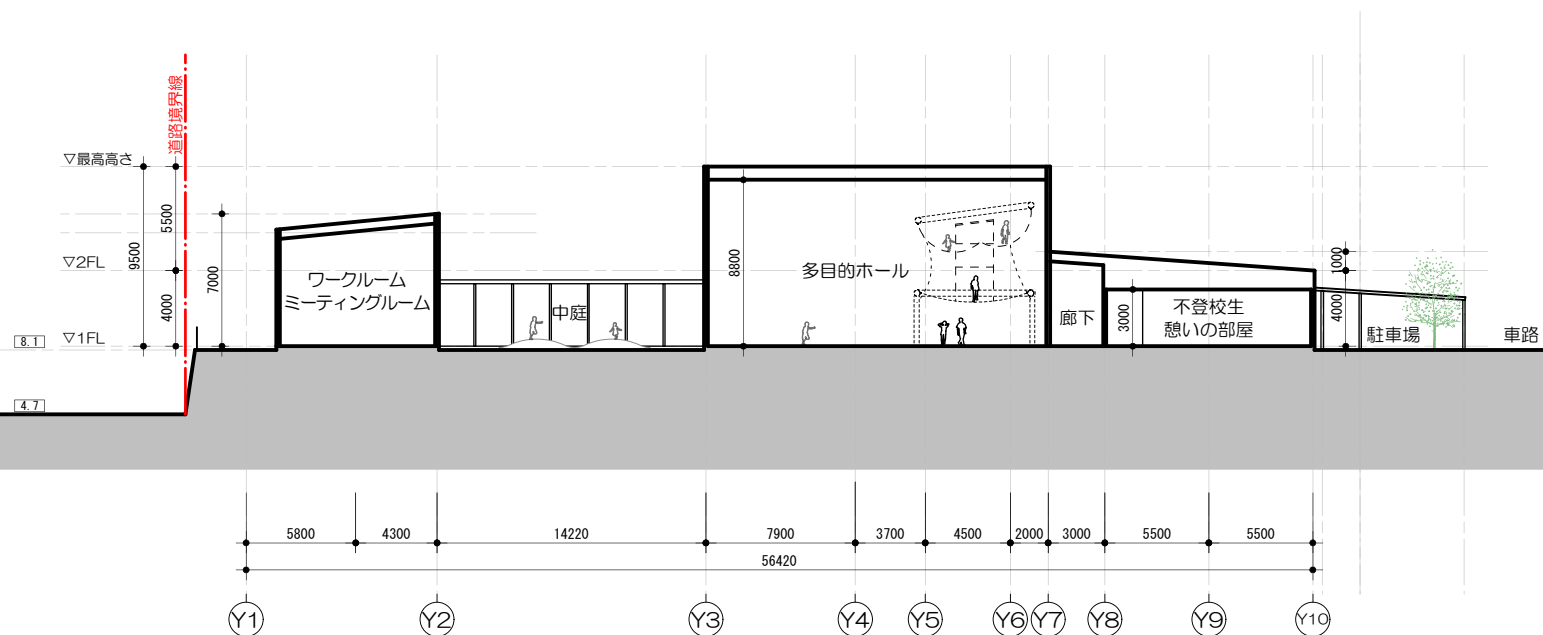
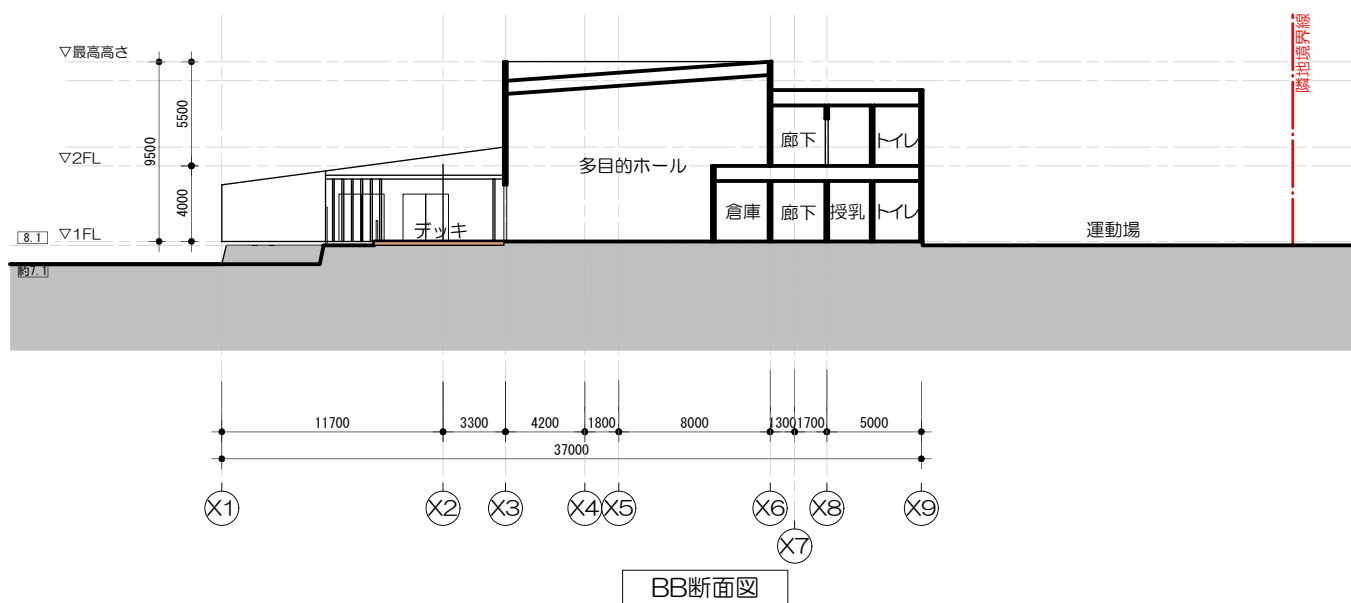
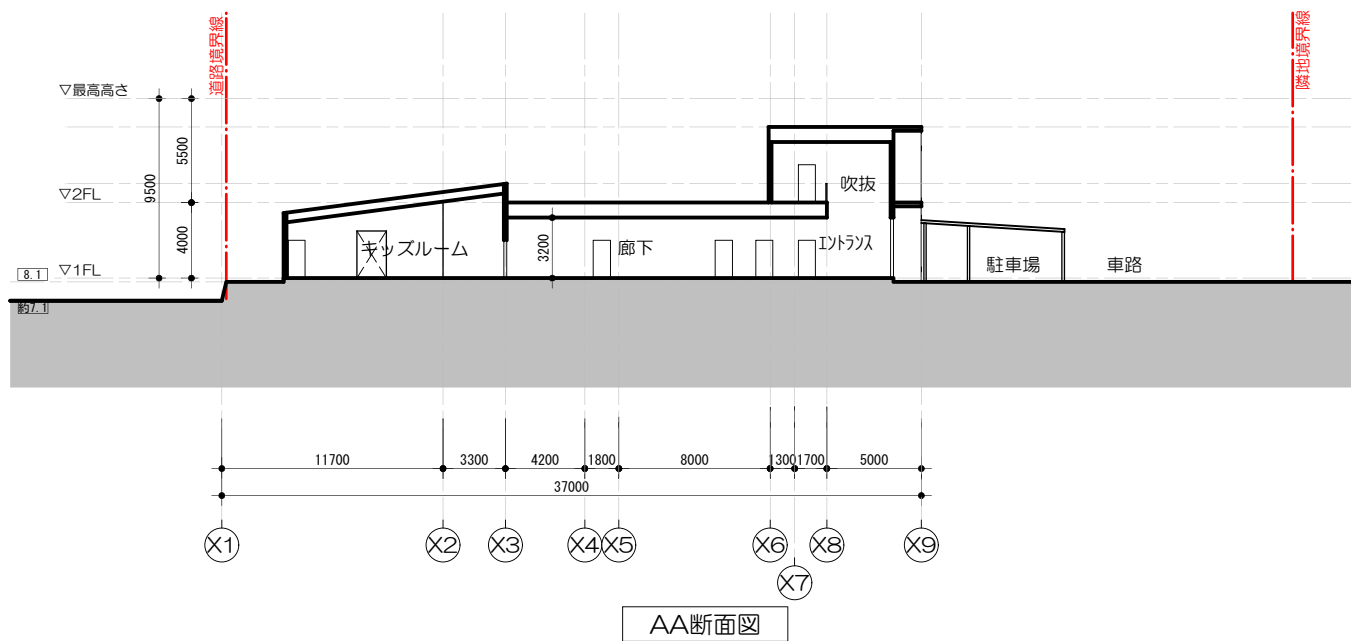
図面リスト

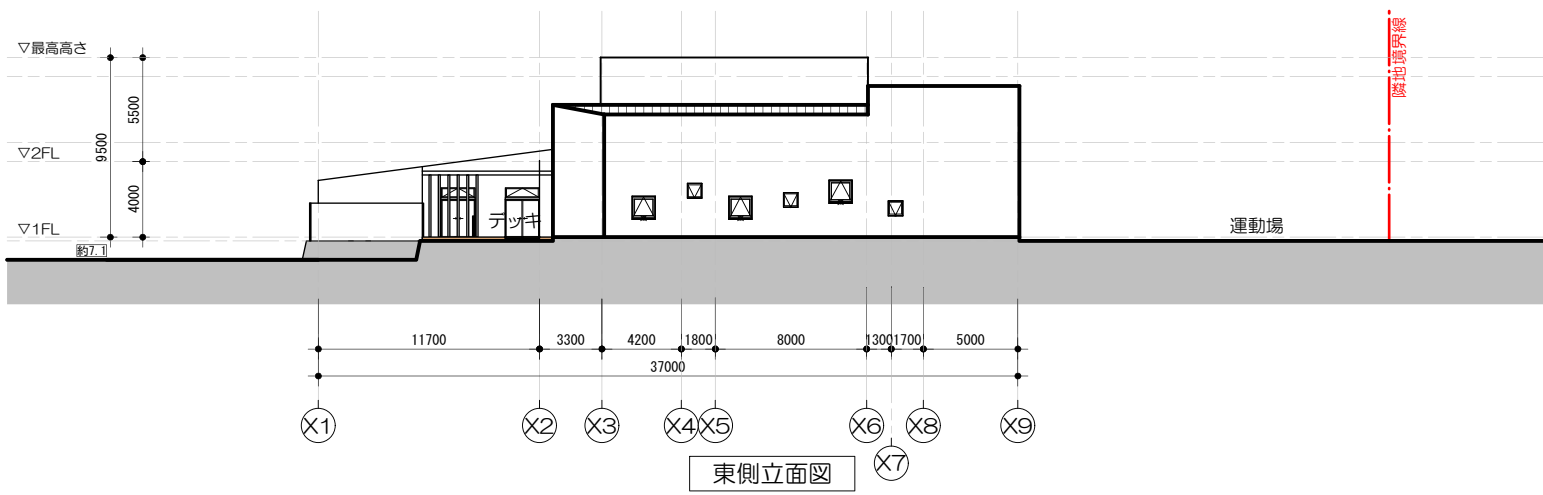
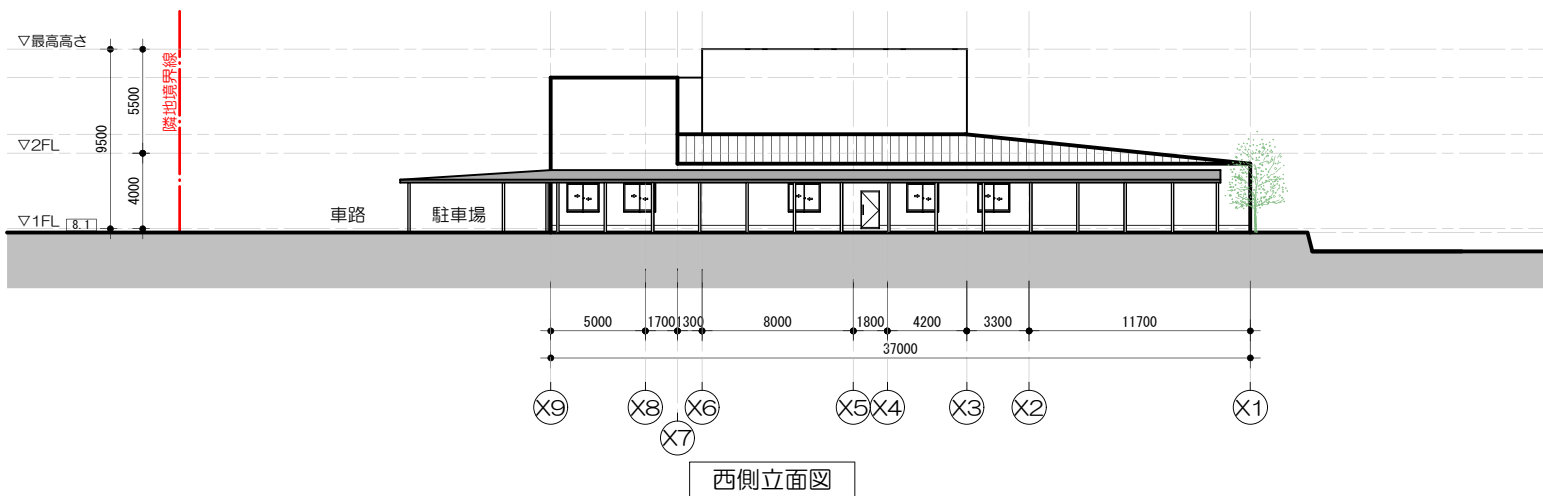
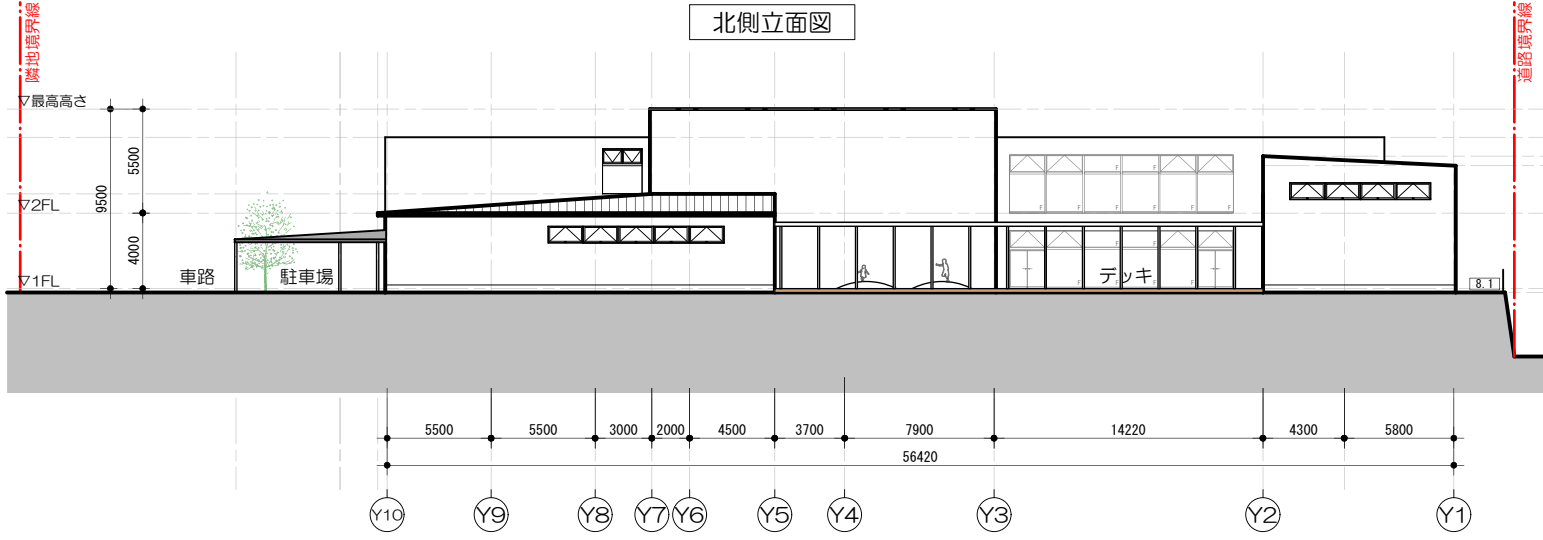
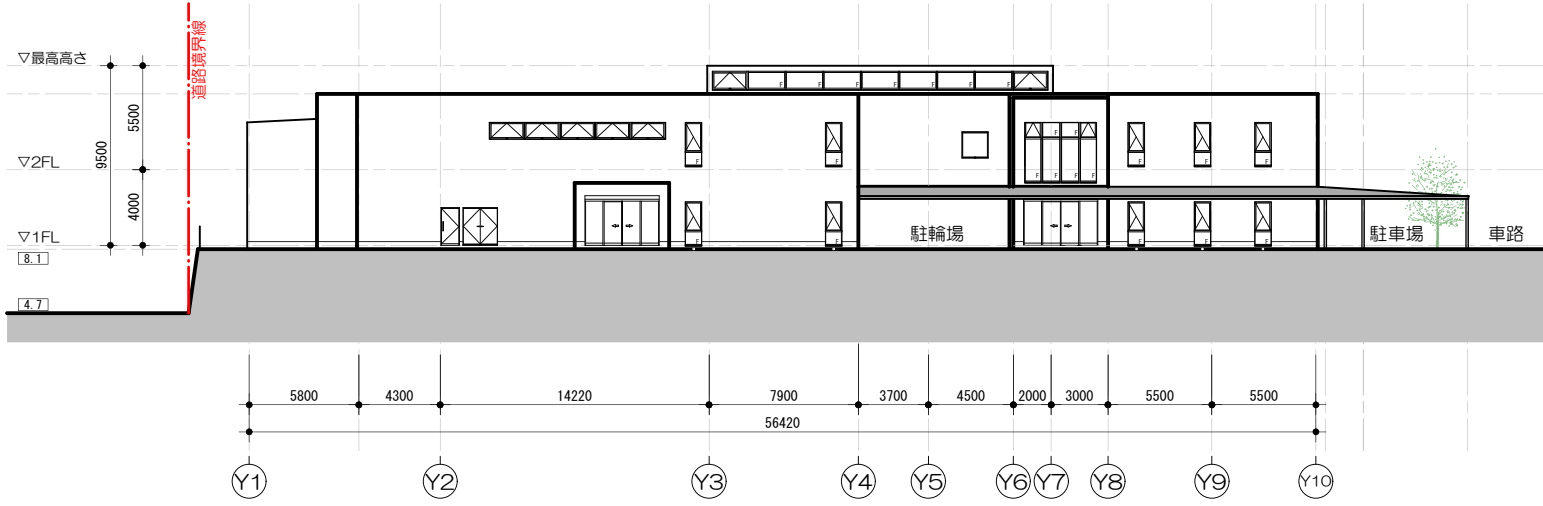




1階平面図 S=1/400 (A4)









南部地域子育て支援拠点施設整備基本計画

みんなが つどい つながり はぐくむ
こどもの居場所（キチ）づくり

発行年月 令和7年3月

延岡市 健康福祉部 こども保育課

〒882-8686 宮崎県延岡市東本小路2番地1

TEL 0982-22-7017

FAX 0982-22-1347